

# 大台町学校施設長寿命化計画

令和2年3月

大台町



# 目 次

第1章 計画の背景と目的	1
1-1 計画策定の背景と目的	1
1-2 計画期間	2
1-3 計画対象施設	2
第2章 学校施設の目指すべき姿	4
第3章 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	6
3-1 大台町の概況	6
3-2 上位・関連計画の位置づけ	12
3-3 学校施設の概要	13
3-4 住民アンケート調査結果の概要	22
第4章 学校施設の老朽化状況の実態	30
4-1 劣化状況の調査方法	30
4-2 調査結果	33
4-3 学校施設の課題	41
第5章 学校施設整備の基本的な方針	42
第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	46
6-1 改修等の整備水準	46
6-2 維持管理の項目・手法等	48
第7章 学校施設の再編・再整備に向けた基本的な方針	50
第8章 長寿命化の実施計画	53
第9章 長寿命化計画の継続的運用方針	57
9-1 情報基盤の整備と活用	57
9-2 推進体制等の整備	57
9-3 フォローアップ	58



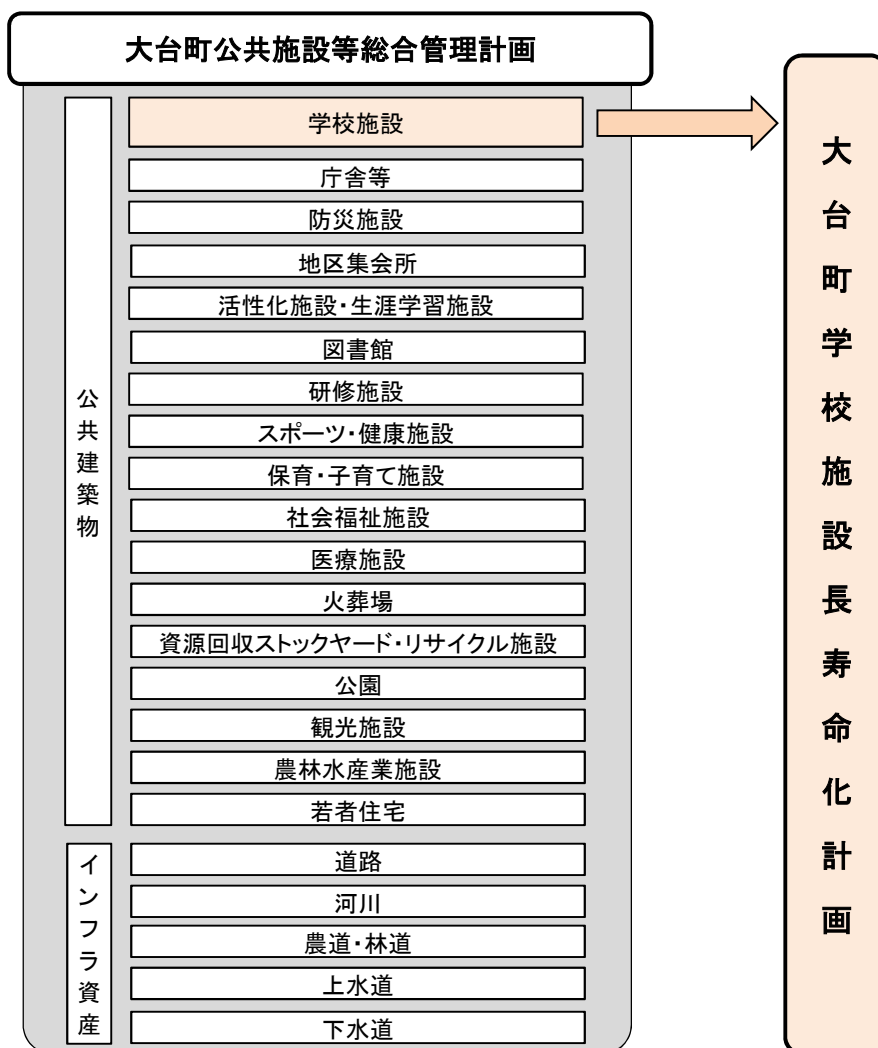
# 第1章 計画の背景と目的

## 1-1 計画策定の背景と目的

大台町（以下「本町」という。）の学校施設は現在、小学校4校、中学校2校があり、それらの中には建設されてから30年以上経過し、老朽化・機能低下がみられる校舎等があります。これらの学校施設の修繕や建替えには多額の費用が必要になると考えられ、また、今後児童生徒数の減少が見込まれることから、学校施設の適切な配置・維持管理が課題となっています。

このことは、本町に限らず全国共通の課題となっており、国においては平成27年4月に「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」を公表し、単なる更新のための改修・改築ではなく、施設を長い期間、有効利用できる長寿命化改修と計画的な維持管理に向けた中長期計画の策定・実施の考え方が示されています。

このような状況を踏まえ、本計画は、平成28年11月に策定された「大台町公共施設等総合管理計画」に基づき、学校施設を対象として、現地調査等を踏まえて劣化状況を把握するとともに、ライフサイクルコスト、保全優先度等を勘案しながら、今後の維持保全の方向性と、将来の学校施設の規模・配置計画の基本方針を検討し、学校施設長寿命化計画を策定するものです。



## 1-2 計画期間

本計画は、上位計画である「大台町公共施設等総合管理計画」の計画期間（平成 28（2016）年度～令和 12（2030）年度）と整合を図りつつ、長期的な視点が不可欠であることから、令和 2（2020）年度を初年度とし 40 年後の令和 41（2059）年度までを計画期間とします。

ただし、施設の老朽化状況、財政状況等を踏まえ 5 年毎に見直していくこととします。

令和 2（2020）年度 ～ 令和 41（2059）年度（40 年間）
-------------------------------------

## 1-3 計画対象施設

本計画で対象とする施設は、本市が保有する学校施設（小学校・中学校）とします。

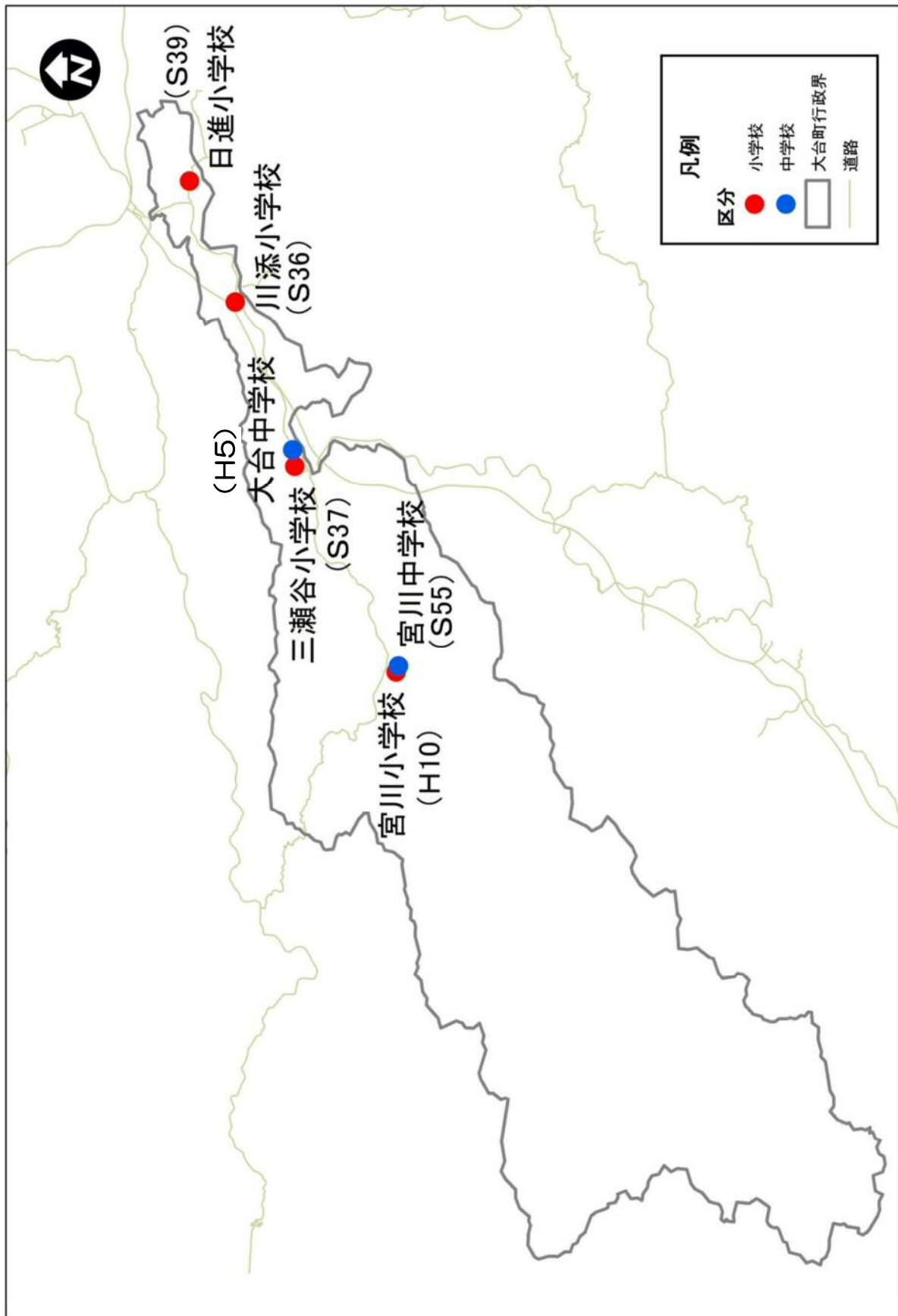
### ■小学校（4校）

1	日進小学校
2	川添小学校
3	三瀬谷小学校
4	宮川小学校

### ■中学校（2校）

1	大台中学校
2	宮川中学校

■位置図（町内小中学校の位置と建築年）



---

## 第2章 学校施設の目指すべき姿

学校施設の目指すべき姿を以下に示す5つの視点から整理します。

### ①安全性の確保

- ・学校施設は、児童・生徒にとって「学びの場」であるとともに1日の大半を過ごす「生活の場」であることから、豊かな人間性を育むのにふさわしい、快適で十分な安全性、防災性、防犯性や衛生的な環境を備えた施設を目指します。
- ・児童・生徒だけではなく、誰もが利用しやすい学校施設とするため、バリアフリーに配慮した施設を目指します。

### ②快適性の確保

- ・学校施設は、基礎的・基本的な学力の定着を図る子供たちの学習・生活の場であり、学校教育活動を行うための基本的な教育条件であるため、充実した教育活動を存分に展開できるよう、機能的で快適な施設を目指します。
- ・学校施設は児童・生徒の学習・生活の場であるとともに、教職員が働く場でもあることから、教職員がより効率的に事務ができるよう、快適な執務空間の確保やICT環境の整備等、執務環境としてふさわしい機能の確保を目指します。

### ③学習活動の適応性

- ・子供たち一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実を図り、児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させるため、調べ学習や少人数指導、チームティーチング等、多様な学習活動に柔軟に対応できる環境づくりを目指します。
- ・グローバル社会に対応した教育の推進（英語力・コミュニケーション力等の育成）や高度情報化に対応し学習効果を高めるためのICT環境の充実を目指します。

### ④環境への適応性

- ・地球環境に配慮し、持続可能な社会の実現のため、自然エネルギーの利用や校内緑化の推進を目指します。
- ・太陽光発電設備の導入、高断熱材の採用のほか、LED照明、人感センサー照明など省エネルギー化により環境に配慮した施設を目指します。

### ⑤地域の拠点化

- ・学校施設は、地域住民にとって最も身近な施設であり、生涯にわたる学習、文化、スポーツ等の活動の場として、また、地震等の非常災害時には避難所としても重要な役割を担っています。今後とも、地域のコミュニティ活動の場としての機能の強化、防災施設としての機能の強化を目指します。
- ・児童・生徒数の減少に伴う余剰教室や余剰スペースについては、学校機能に配慮した中で地域施設としての利活用を目指します。



## <参考>学校施設の目指すべき姿の例

<p><b>1. 安全性</b></p> <p><b>○災害対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震に強い学校施設</li> <li>・津波・洪水に強い学校施設</li> <li>・防災機能を備えた学校施設</li> </ul> <p><b>○防犯・事故対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心な学校施設</li> </ul> <p><b>2. 快適性</b></p> <p><b>○快適な学習環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習能率の向上に資する快適な学習環境</li> <li>・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々が誇りや愛着をもつことができる学校</li> <li>・バリアフリーに配慮した環境</li> <li>・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間</li> </ul> <p><b>○教職員に配慮した環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に配慮した空間</li> <li>・教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要なICT環境</li> </ul> <p><b>3. 学習活動への適応性</b></p> <p><b>○主体性を養う空間の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境</li> <li>・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間</li> <li>・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間</li> <li>・社会性を身に付けるための空間</li> </ul> <p><b>○効果的・効率的な施設整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間</li> <li>・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間</li> <li>・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境</li> <li>・各教科等の授業を充実させるための環境</li> </ul> <p><b>○言語活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間</li> <li>・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境</li> <li>・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境</li> </ul>	<p><b>3. 学習活動への適応性（続き）</b></p> <p><b>○理数教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した観察・実験を行うための環境</li> </ul> <p><b>○運動環境の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した運動ができる環境</li> </ul> <p><b>○伝統や文化に関する教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統や文化に関する教育を行うための環境</li> </ul> <p><b>○外国語教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができそうな空間</li> </ul> <p><b>○学校図書館の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境</li> <li>・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間</li> <li>・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境</li> <li>・地域に開かれた学校とするための環境</li> <li>・地域の生涯学習の拠点となる学校施設</li> </ul> <p><b>○キャリア教育・進路指導の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境</li> </ul> <p><b>○食育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育のための空間</li> </ul> <p><b>○特別支援教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーに配慮した環境</li> <li>・自閉症、情緒障害又はADHD等のある児童生徒に配慮した学校施設</li> </ul> <p><b>○環境教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール</li> </ul> <p><b>4. 環境への適応性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を考慮した学校施設（エコスクール）</li> </ul> <p><b>5. 地域の拠点化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心な学校施設</li> <li>・バリアフリーに配慮した環境</li> <li>・地域に開かれた学校とするための環境</li> <li>・地域の生涯学習の拠点となる学校施設</li> </ul>
---	--

（出典：「学校施設整備基本構想の在り方について」（平成25年3月 学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議））

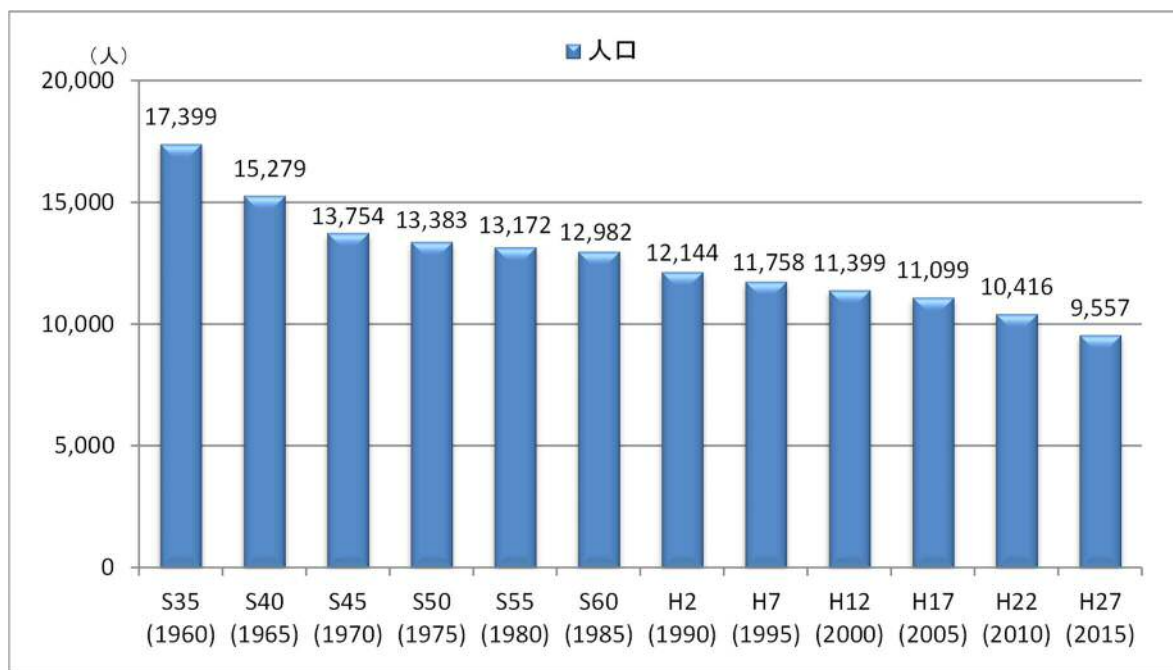
## 第3章 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

### 3-1 大台町の概況

#### (1) 人口

##### ①人口の推移

本町の人口は昭和35(1960)年以降一貫して減少傾向にあり、平成27(2015)年における人口は9,557人となっています。



(出典：国勢調査)

図. 人口の推移

##### ②年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)は減少傾向、老年人口(65歳以上)は増加傾向となっています。平成27(2015)年の高齢化率は39.8%となっており、三重県平均の27.9%、全国平均の26.6%を上回っています。

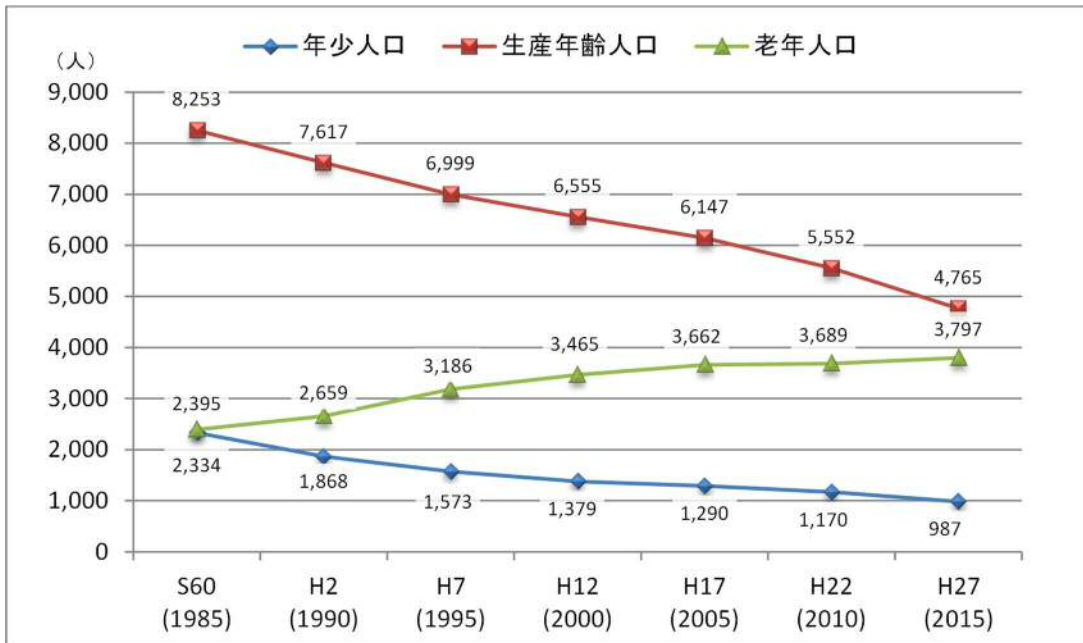


図. 年齢3区分別人口の推移(年齢不詳を除く)

(出典：国勢調査)

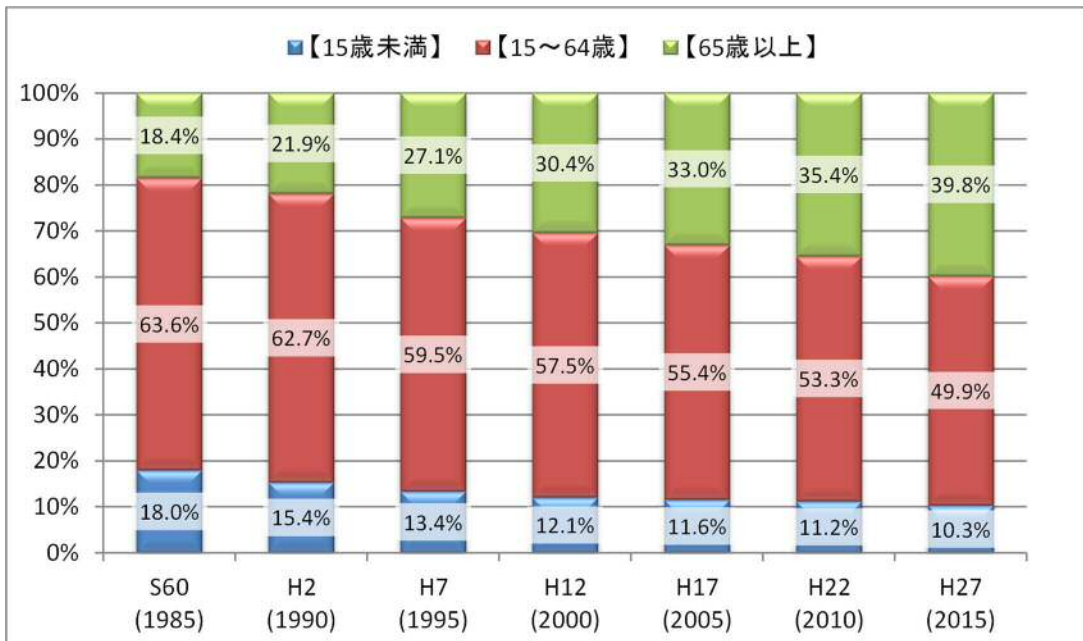


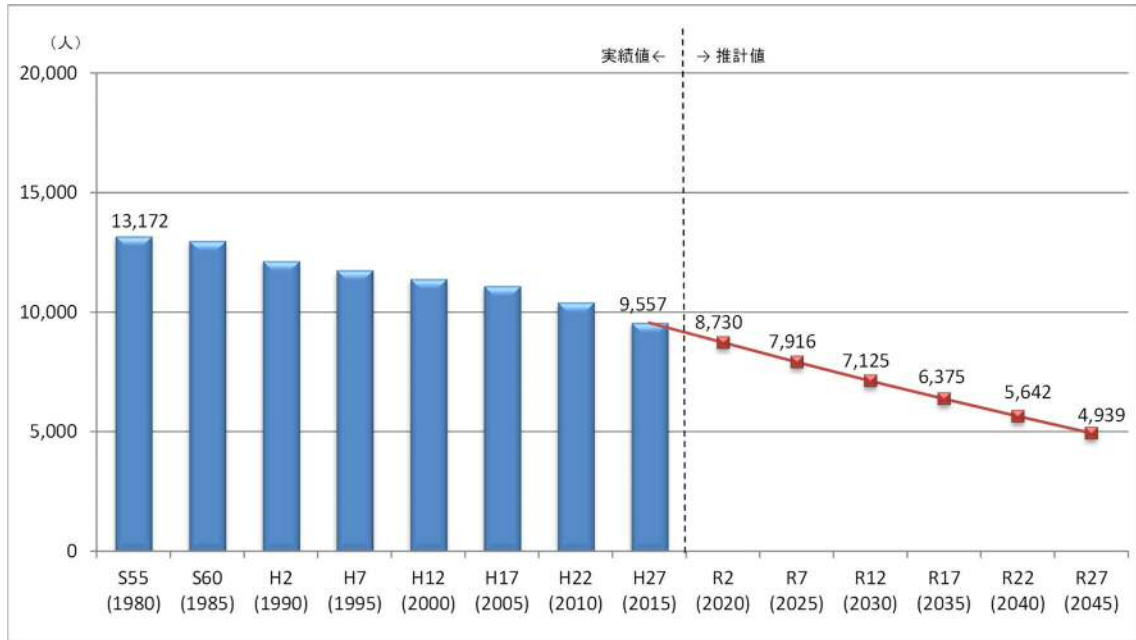
図. 年齢3区分別人口割合の推移(年齢不詳を除く)

(出典：国勢調査)

### ③将来推計人口

#### ア. 国立社会保障・人口問題研究所による推計

国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」の推計では、人口は令和 27（2045）年には約 4,900 人まで減少する推計となっています。



(出典: 国立社会保障・人口問題研究所)

図. 将来人口の推計

年齢3区分別人口は下図のように推計されており、令和 7（2025）年には老年人口が生産年齢人口を上回るものと推計されています。

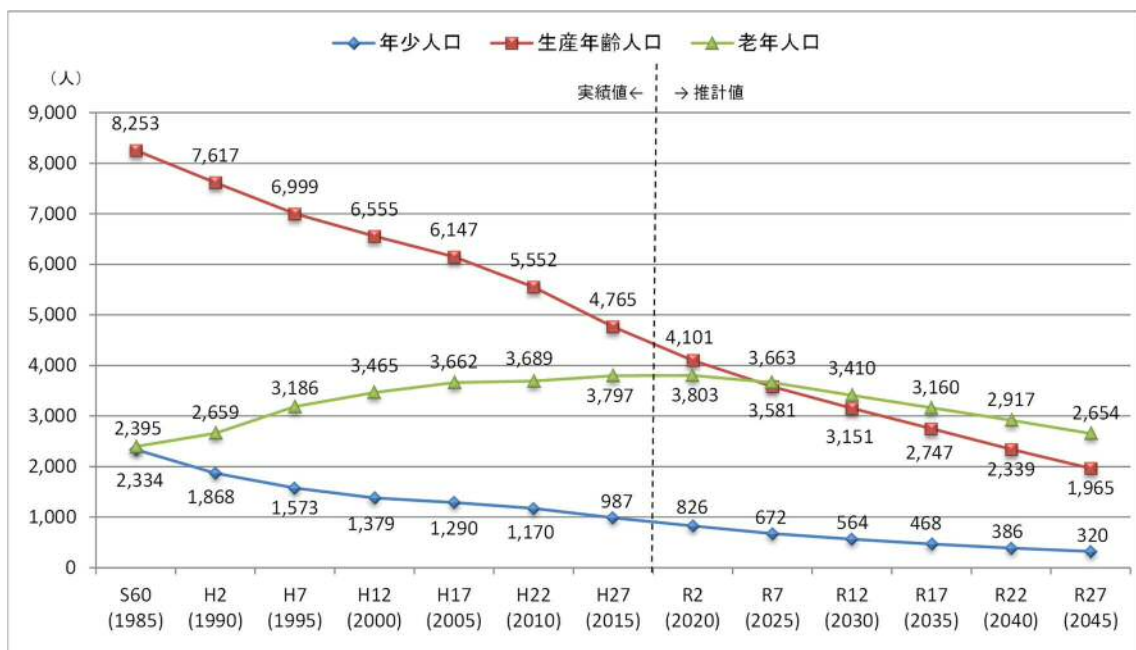
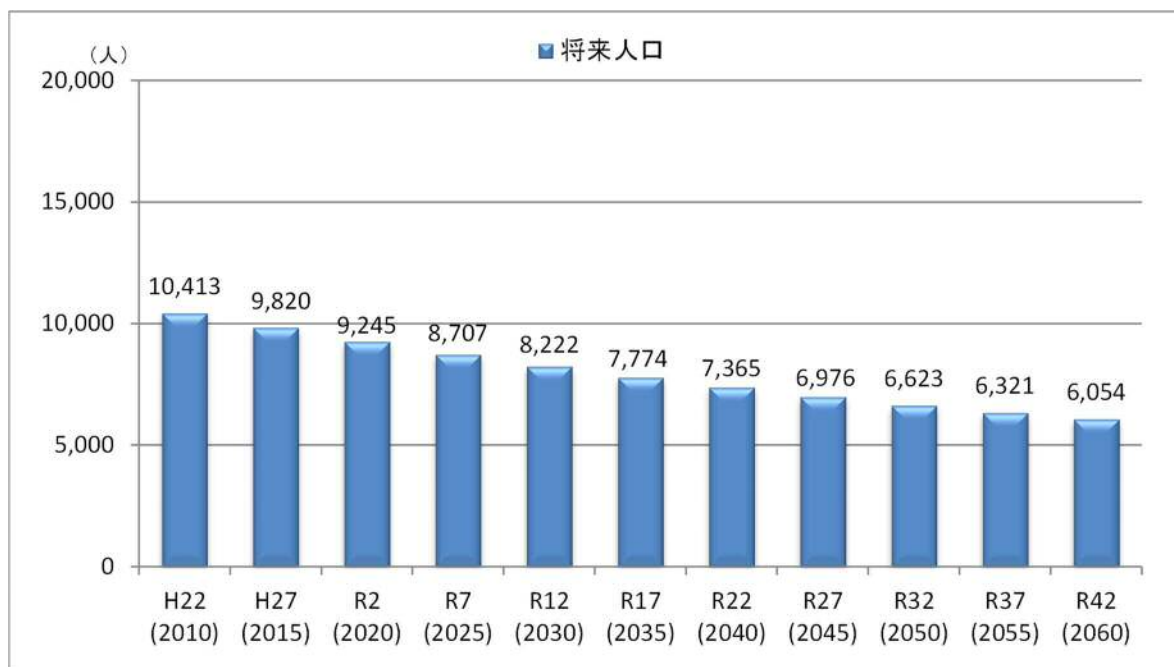


図. 年齢 3 区分別人口割合の推計 (出典: 国立社会保障・人口問題研究所)

イ. 大台町人口ビジョンによる推計（大台町まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 27 年 10 月）

大台町人口ビジョンでは、令和 42（2060）年に向けて人口減少率を緩和するとともに人口構成バランスの改善を図ることを目標とし、下図のように人口の将来展望を示しています。



（出典：大台町まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 27 年 10 月）

図. 大台町における人口の将来展望

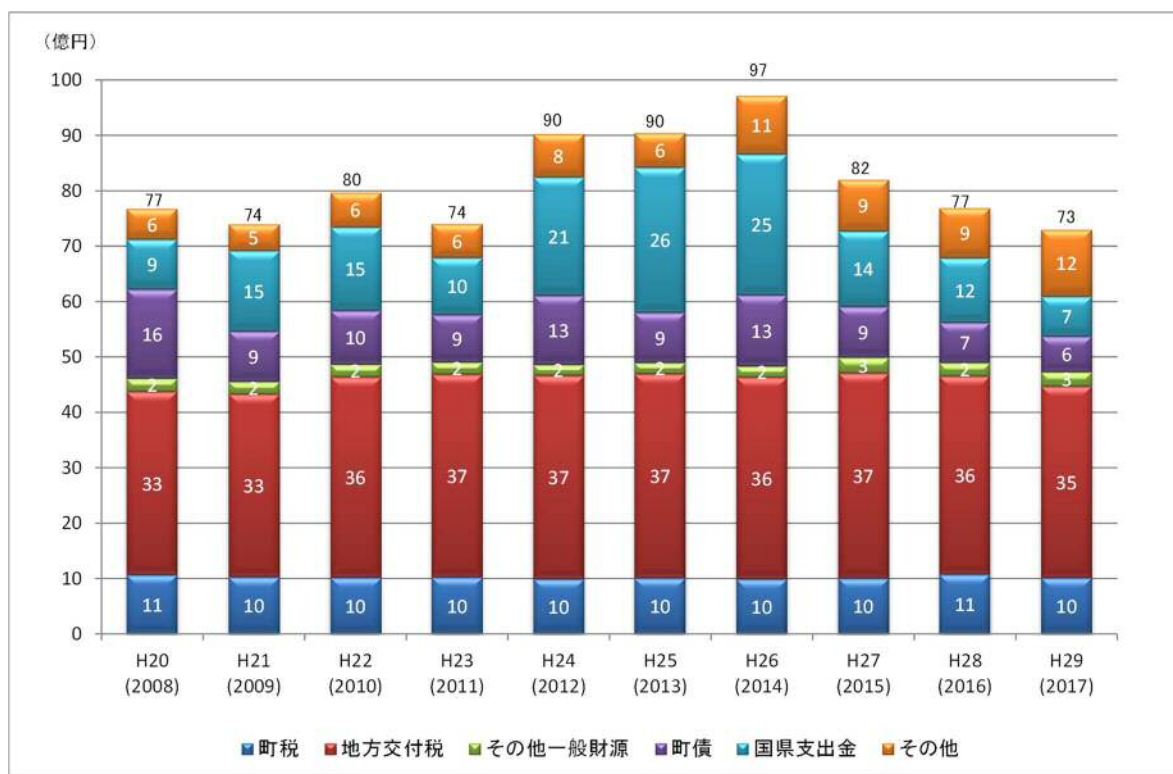
## (2) 財政状況

### ①歳入

本町の歳入総額は、平成 29 (2017) 年度で約 73 億円となっており、このうち地方交付税がほぼ半分を占めています。

過去 10 年程度の推移をみると、70~100 億円内外ではばらつきがあるが、地方交付税はほぼ不変です。

今後は、就労人口の減少に伴う町税収入の減少や交付税の合併特例期間の終了に伴う交付額の減少が見込まれます。



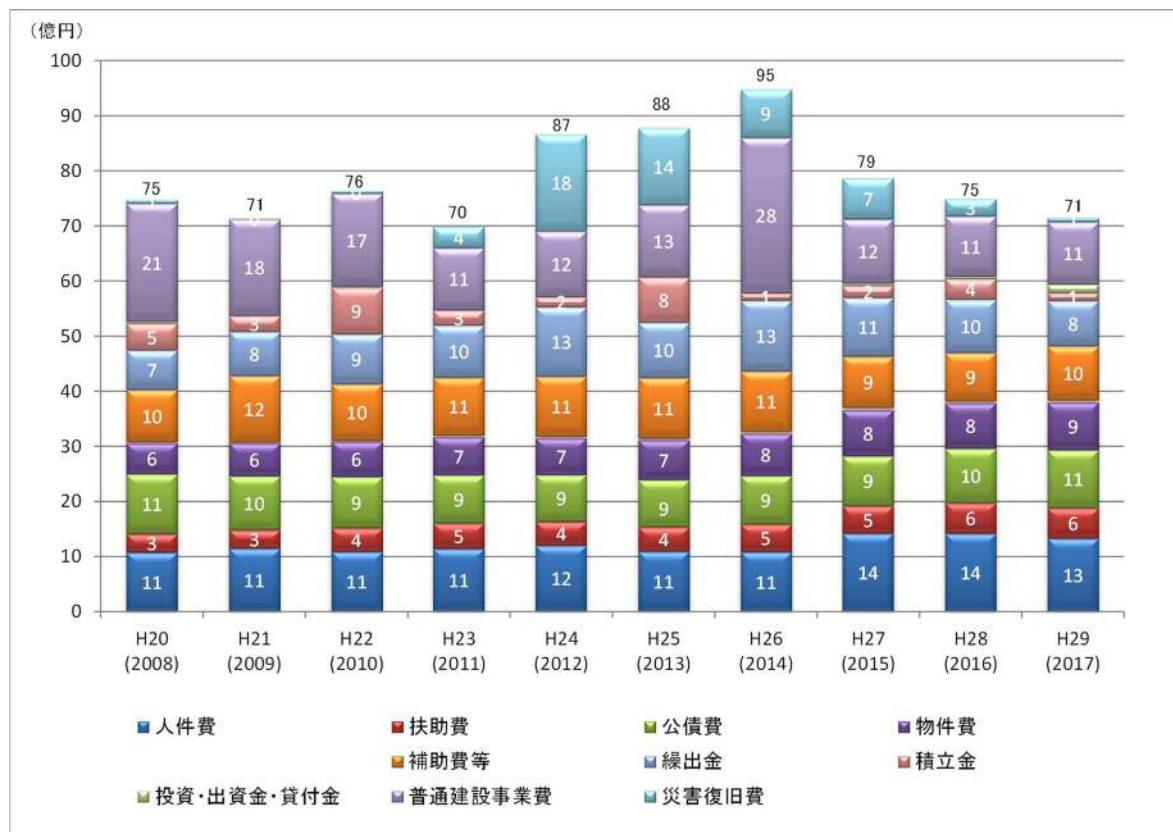
(出典：総務省 地方財政状況調査関係資料 (決算カード))

図. 歳入の推移

## ②歳出

本町の歳出総額は、平成 29（2017）年度で約 71 億円となっており、過去 10 年程度の推移をみると、70～100 億円で推移しています。普通建設事業費については年度ごとにばらつきがあります。

また、扶助費が増加傾向にあり、高齢化の進展に伴い今後とも増加するものと予想されます。



（出典：総務省 地方財政状況調査関係資料（決算カード））

図. 歳出の推移

## 3-2 上位・関連計画の位置づけ

### ① 第2次大台町総合計画（平成29年4月）

第2次大台町総合計画において、「基本目標4 教育・文化振興のまちづくり」が示され、学校教育については下表のように「現状と課題」、「主な取組み」が示されています。

#### ■基本目標4 教育・文化振興のまちづくり 4-1 学校教育

##### <現状と課題>

○町内にある4つの小学校と2つの中学校のうち大台地域の3つの小学校は、老朽化が進んでおり、学校の規模や児童生徒数を考慮した学校整備計画を検討していく必要があります。また、学区が広域であるためスクールバスが必要不可欠ですが、車両の老朽化も進んでいるため、今後の児童生徒数を考慮しながらスクールバスの購入計画を検討する必要があります。

##### <主な取組み>

#### ▼学校規模適正化と教育環境の整備

児童生徒数の傾向を考慮した学校整備計画及びスクールバス購入計画等を作成し、児童生徒が安心して学べる教育環境の整備充実を図ります。

### ② 大台町公共施設等総合管理計画（平成28年11月）

大台町公共施設等総合管理計画において、「施設類型ごとの管理に関する基本的な方針」が示され、学校施設については下表のように基本的な方針が示されています。

#### ■計画期間

平成28年度から令和12年度までの15年間

#### ■基本方針（抜粋）

保有する公共建築物の全体面積を、人口減少や人口構造の変化を見据え、17%縮減

#### ■施設類型ごとの管理に関する基本的な方針

施設類型	基本的な方針
学校施設	長期的な視点による効率的な維持管理を行い、予防保全の考え方により計画的に修繕等を実施し、施設の長寿命化を図るとともに学校規模の状況、児童・生徒数減少の動向、適正な通学区の設定、地元への影響等、諸条件を総合的に判断し、安全で快適な教育環境の整備を推進します。



### 3-3 学校施設の概要

#### (1) 対象施設の概要

本町には、小学校4校、中学校2校の合計6校の学校施設があります。

表. 小中学校一覧

平成30年度 公立学校施設等の総括表

	名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	主たる 建物 建築年度	主体 構造	大規模 改修	建物 棟数	児童生徒数(人)			学級数(学級)		
									通常学級 在籍者数	特別 支援	計	通常 学級	特別 支援	計
1	日進小学校	大台町新田278番地	11,870	3,265.75	S39	RC	H14	7	92	3	95	6	1	7
2	川添小学校	大台町上楠420番地	7,472	2,745.72	S36	RC	H14	7	50	5	55	5	1	6
3	三瀬谷小学校	大台町佐原107番地	12,264	4,418.00	S37	RC	H4	5	154	9	163	6	2	8
4	宮川小学校	大台町茂原543番地3	40,267	4,056.23	H10	木造	-	6	74	5	79	6	1	7
小学校 計									370	22	392	23	5	28
1	大台中学校	大台町上三瀬903番地1	36,130	6,877.34	H5	RC	-	10	147	8	155	6	1	7
2	宮川中学校	大台町茂原643番地8	31,848	6,443.11	S55	RC	H16	8	43	2	45	3	1	4
中学校 計									190	10	200	9	2	11
小・中学校 合計									560	32	592	32	7	39

(出典：学校施設台帳、大台町公共施設等総合管理計画「施設カルテ」)

表. 各小中学校の児童生徒数・学級数(普通)

平成30年度 公立学校施設等の総括表

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計	学級数
日進小学校	9	13	28	8	21	13	92	6
川添小学校	6	9	10	6	9	10	50	5
三瀬谷小学校	24	33	18	22	19	38	154	6
宮川小学校	14	12	6	13	11	18	74	6
計	53	67	62	49	60	79	370	23

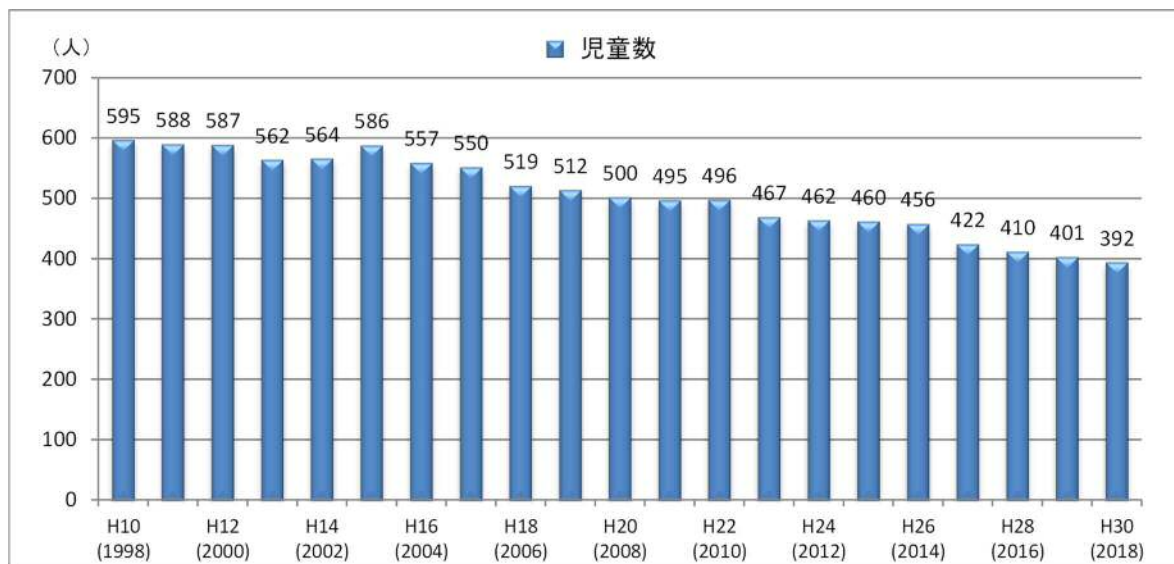
	1学年	2学年	3学年	計	学級数
大台中学校	42	60	45	147	6
宮川中学校	14	12	17	43	3
計	56	72	62	190	9

(出典：学校施設台帳)

## (2) 児童生徒数及び学級数の推移

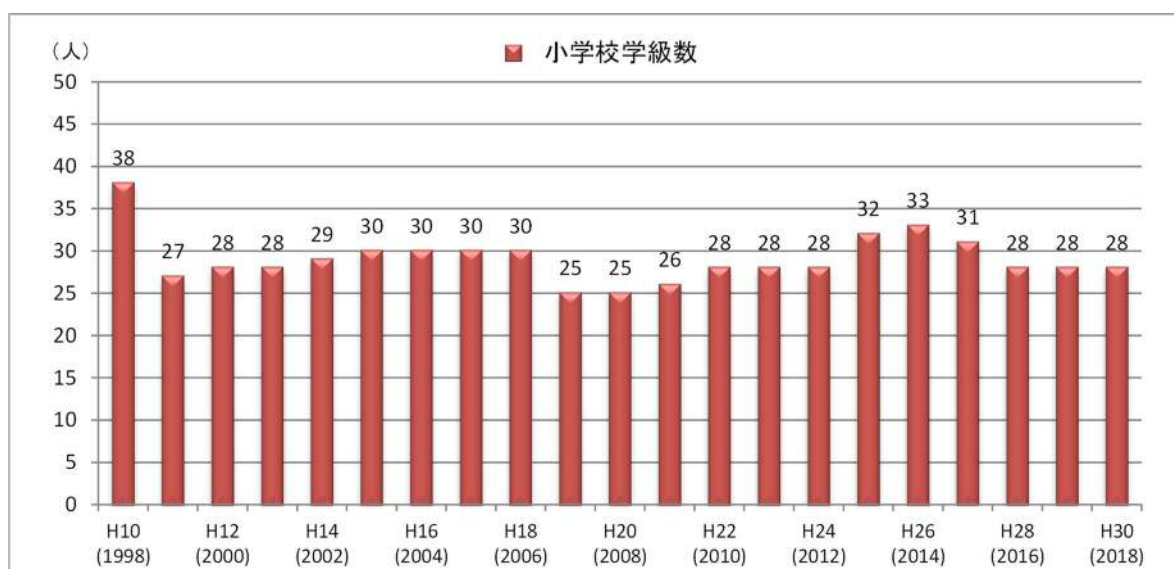
### ①小学校

小学校の児童数は平成30(2018)年度において392人(28学級、特別支援学級5含む)です。児童数は過去20年間で34.1%減少しています。



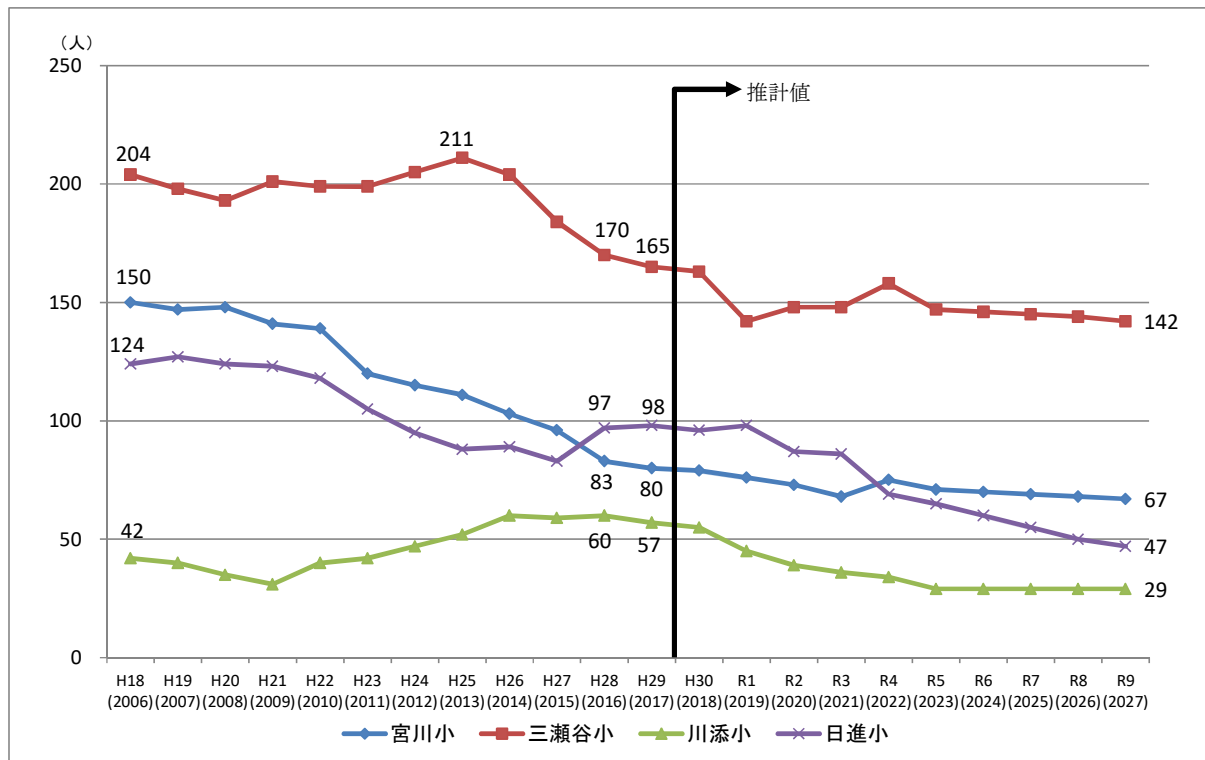
(出典：三重県統計書、学校施設台帳(H28~H30))

図. 児童数の推移



(出典：三重県統計書、学校施設台帳(H28~H30))

図. 小学校学級数の推移



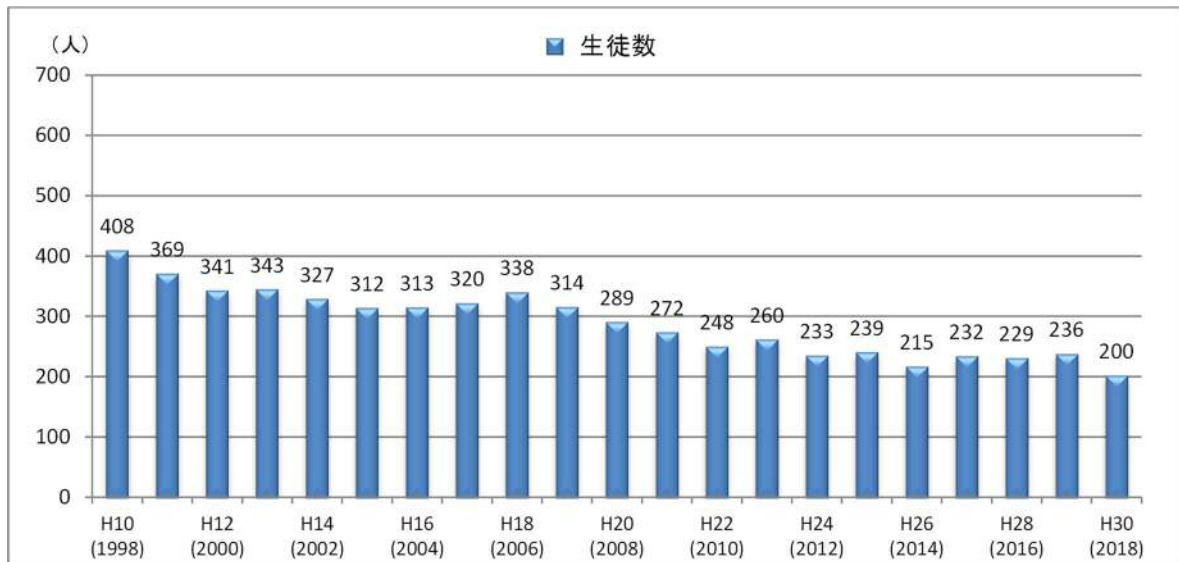
(出典：町調べ)

図. 学校別児童数の推移

学級数をみると、小学校では、川添小学校が複式学級となっており、日進小学校、三瀬谷小学校、宮川小学校は各学年1学級（単学級）となっています。

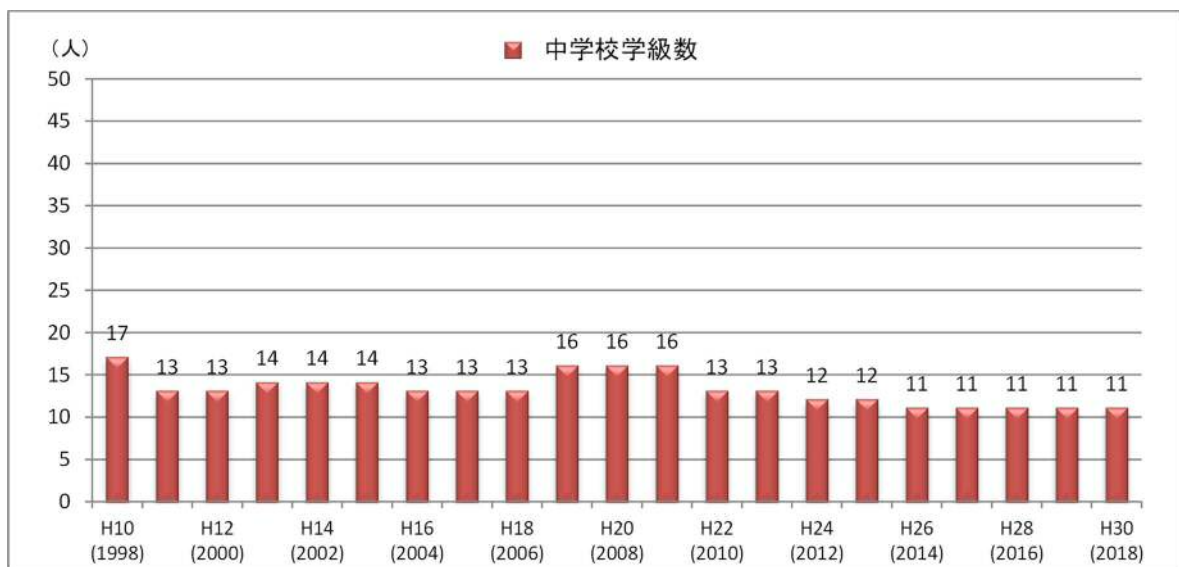
## ②中学校

中学校の生徒数は平成 30（2018）年度において 200 人（11 学級、特別支援学級 2 含む）です。生徒数は過去 20 年間で 51.0%減少しています。



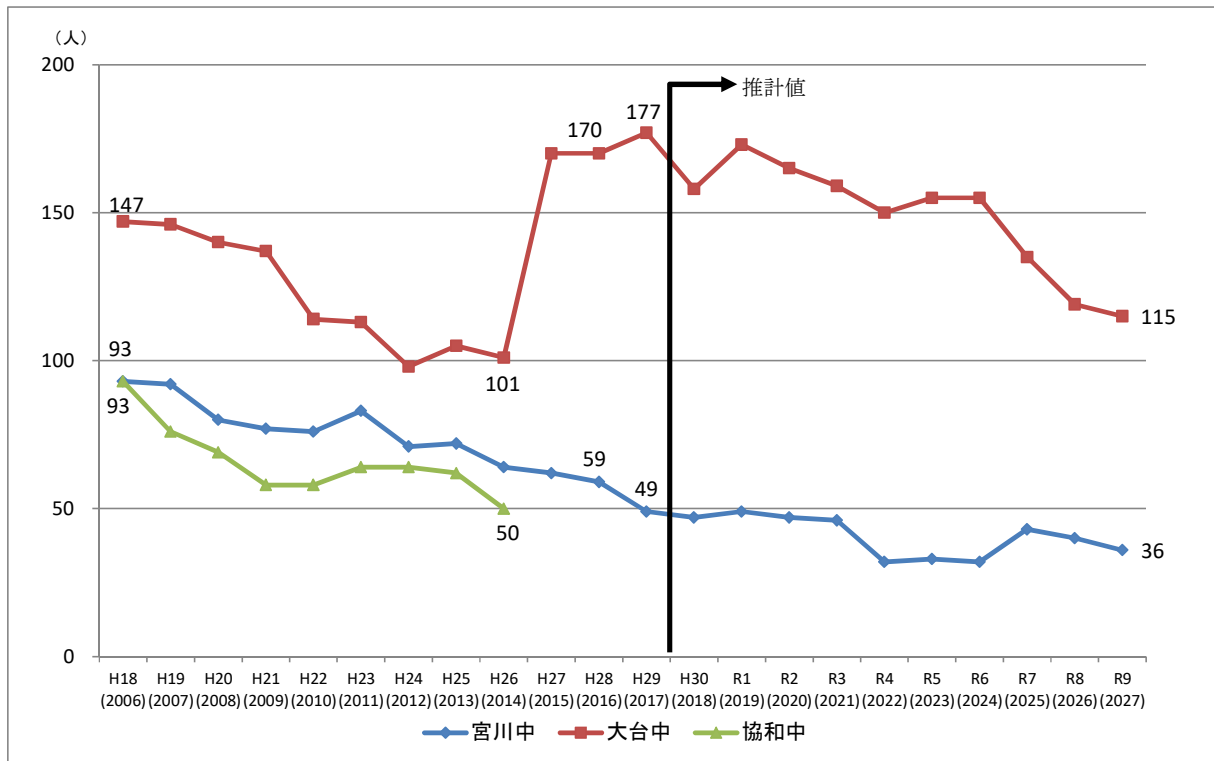
(出典：三重県統計書、学校施設台帳(H28～H30))

図. 生徒数の推移



(出典：三重県統計書、学校施設台帳(H28～H30))

図. 中学校学級数の推移



(出典：町調べ)

図. 学校別生徒数の推移

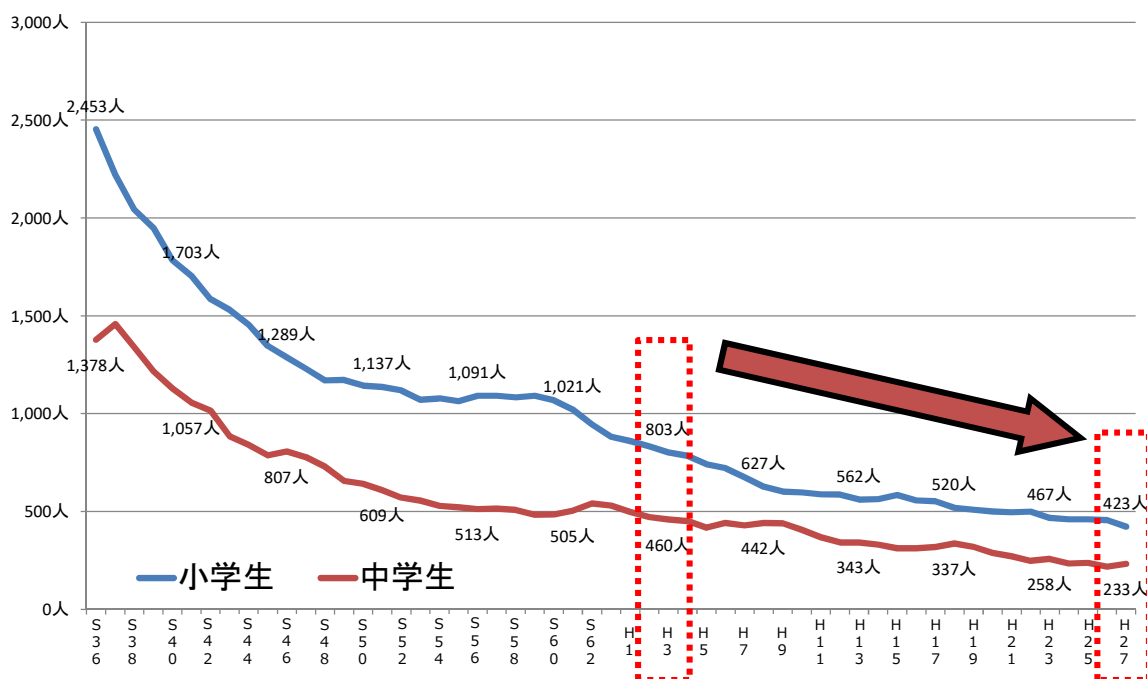
学級数をみると、中学校では大台中学校は各学年 2 学級、宮川中学校は各学年 1 学級(単学級)となっています。

<参考>長期的にみた児童生徒数の推移

平成3年から平成27年までの24年間で小学生・中学生ともおよそ半数に減少

小学生：803人→423人[53%]

中学生：460人→233人[51%]



(出典：大台町公共施設等総合管理計画)

図. 長期的にみた児童生徒数の推移

### (3) 施設関連経費の推移

過去5年間の学校施設における施設整備費と施設管理費等を合計した施設関連経費を下記に示します。過去5年間（平成26（2014）年度～平成30（2018）年度）の平均は約1.1億円/年となっています。

表. 施設関連経費の推移

(円)

年度	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H26～H30 5年平均
施設整備費	284,755,230	37,180,348	46,924,179	4,764,442	1,944,632	75,113,766
その他施設整備費	-	-	-	-	-	-
維持修繕費	4,869,088	9,121,222	10,279,708	13,451,515	14,548,136	10,453,934
光熱水費・委託費等	30,489,532	30,682,773	25,911,557	24,712,721	25,518,400	27,462,997
施設関連経費合計	320,113,850	76,984,343	83,115,444	42,928,678	42,011,168	113,030,697

(出典：町調べ)

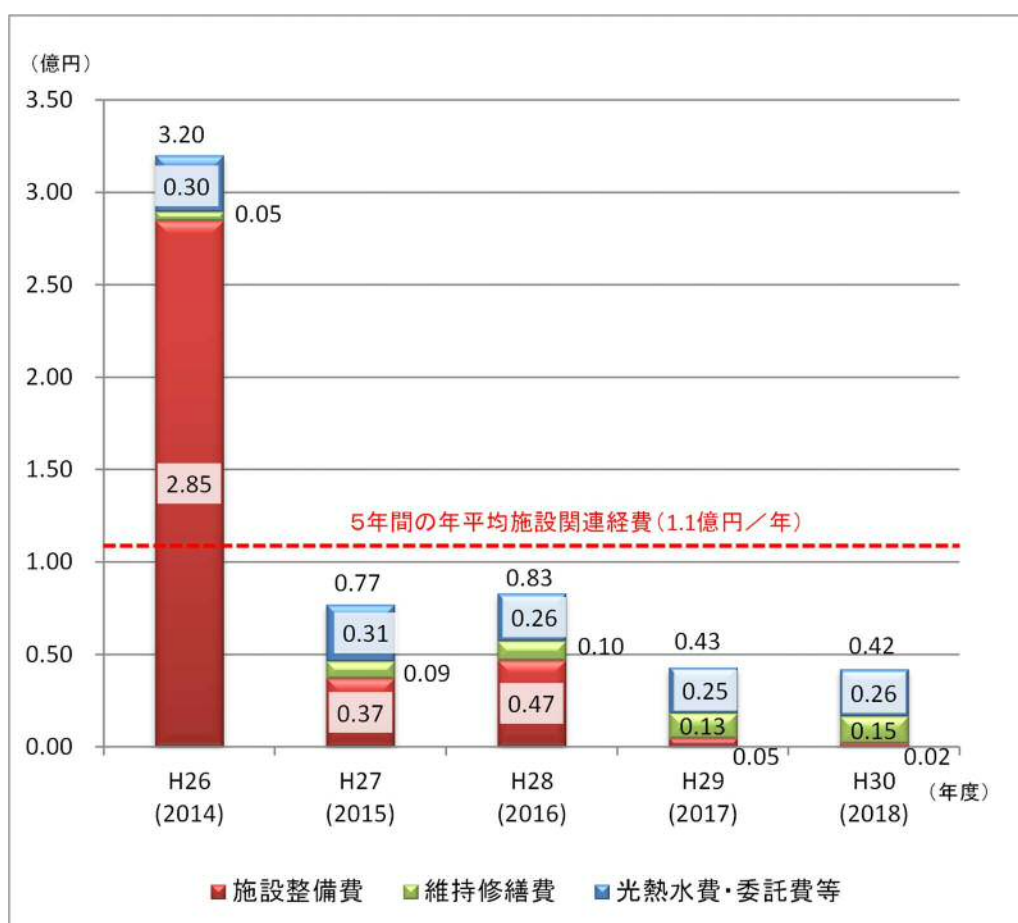


図. 施設関連経費の推移

(出典：町調べ)

#### (4) 学校施設の保有量

築年別整備状況をみると、学校施設は昭和37（1962）年前後、昭和55（1980）年前後及び平成5（1993）年、平成10（1998）年に多くが建築されています。

旧耐震基準による昭和56（1981）年以前の建物が全体（2.6万㎡）の54%（1.4万㎡）を占めていますが、すべて耐震改修済みです。

また、一般的に建物の大規模改修を行う目安とされる築30年以上経過した建物は全体の55%を占めています。

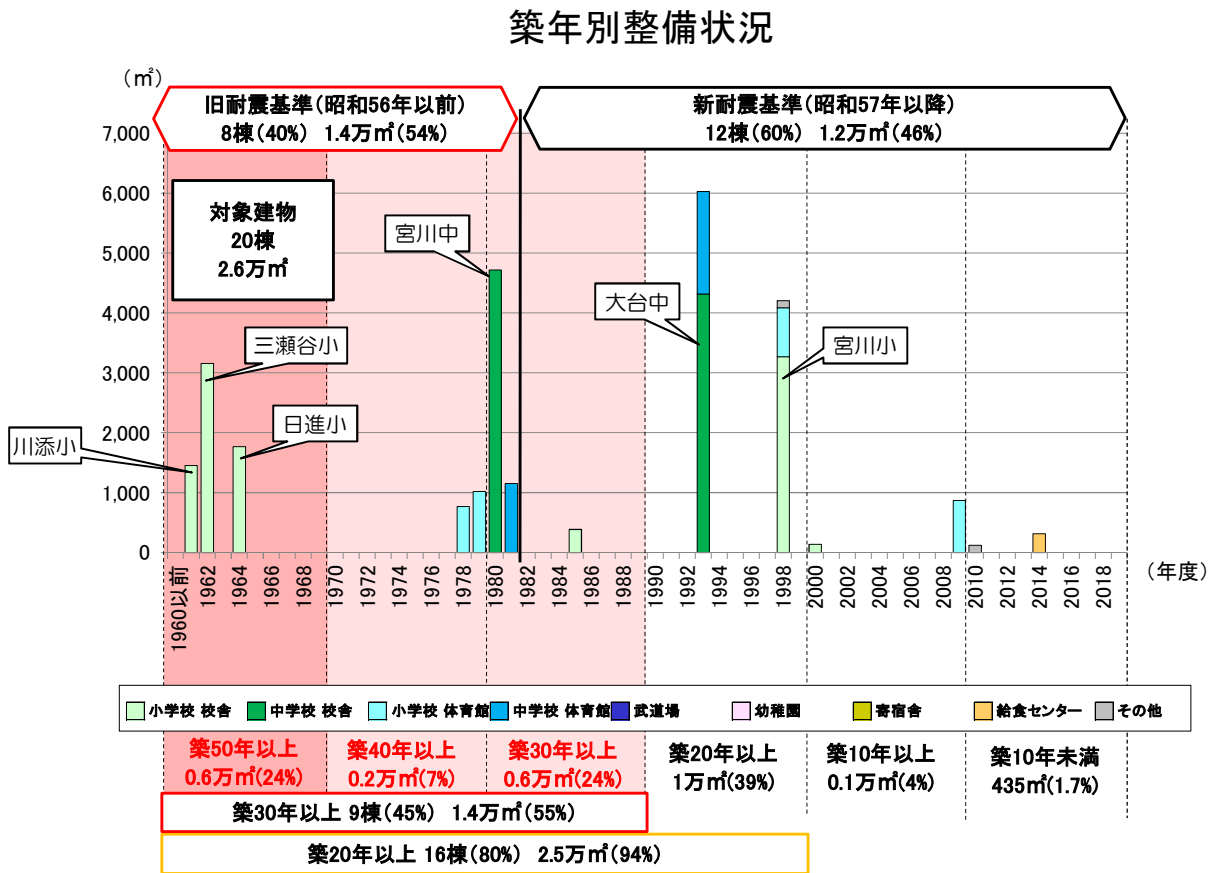


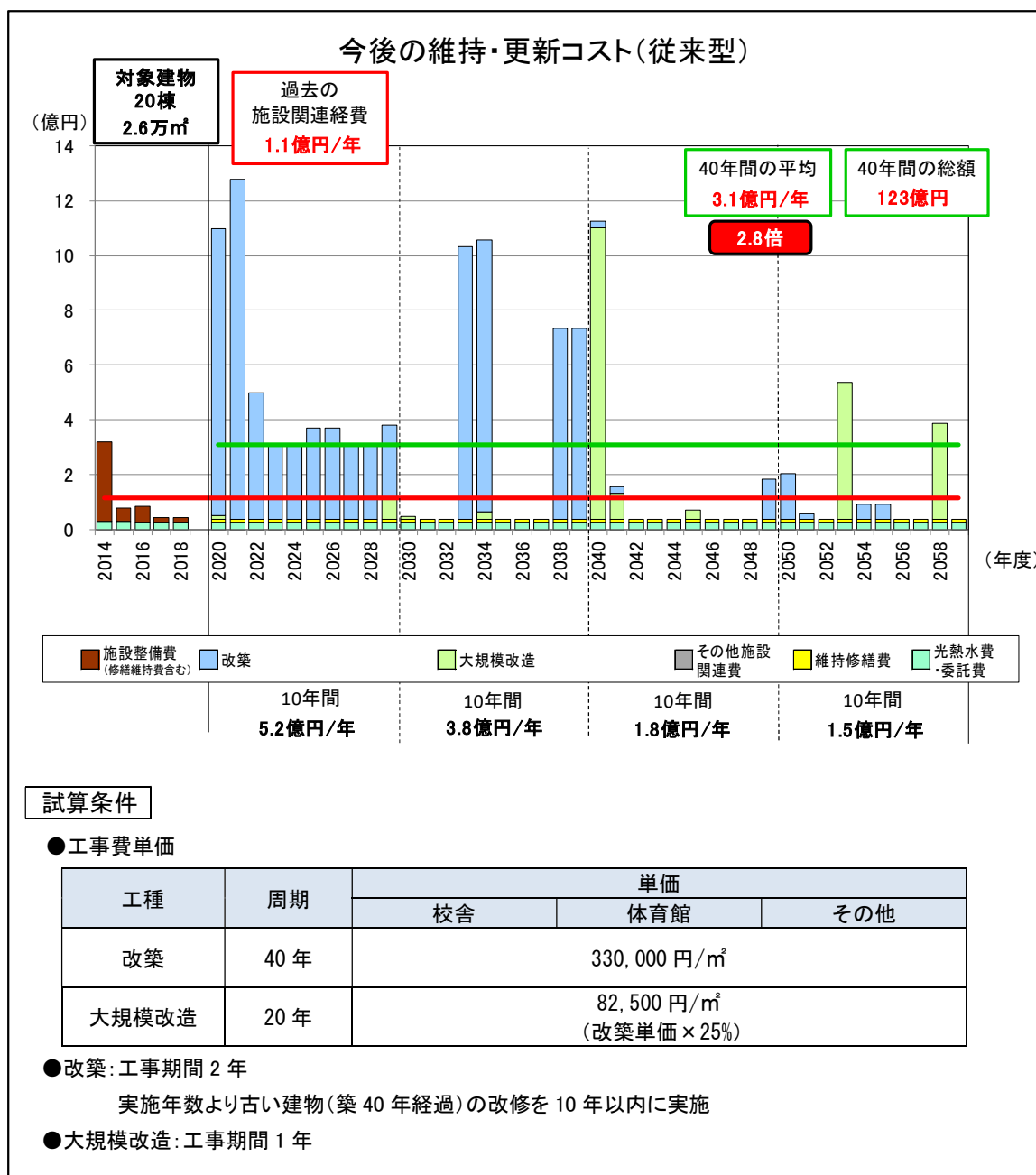
図. 築年別整備状況



## (5) 今後の維持・更新コスト(従来型)

学校施設にかかる今後の維持・更新コストを文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属ソフト」を用いて試算すると、40年間にかかる更新費用の総額は約123億円となり、1年当たり換算すると毎年3.1億円の更新費用が必要となります。

本町の学校施設に対する施設関連経費は、過去5年間(平成26(2014)年度～平成30(2018)年度)の平均で1.1億円/年となっており、年間約2.0億円の不足となり、今後、学校施設整備にかかるコストについて縮減していく必要があります。



(出典: 学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属ソフト(文部科学省))

図. 今後の維持・管理コスト(従来型)

### 3-4 住民アンケート調査結果の概要

#### (1) 調査の目的

本町の学校施設は現在小学校4校、中学校2校があり、それらの中には建設されてから30年以上経過し老朽化・機能低下がみられる校舎等があります。これらの学校施設の修繕や建替えには多額の費用が必要になると考えられ、また、今後児童生徒数の減少が見込まれることから、学校施設の適切な配置・維持管理が課題となっています。

このことは本町に限らず全国共通の課題となっており、国においては平成27年4月に「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」を公表し、単なる更新のための改修・改築ではなく施設を長い期間、有効利用できる長寿命化改修と計画的な維持管理に向けた中長期計画の策定・実施の考え方が示されています。

このような中、本町の学校施設における長寿命化計画策定に向け、その参考とするため町民の皆様、保護者の皆様に“学校施設のあり方”についてのアンケート調査を実施することといたしました。

#### (2) 調査方法

##### ①調査対象：一般住民

- ◆調査期間：2019年2月26日～2019年3月13日
- ◆調査対象者：大台町に住所を有する住民を無作為抽出
- ◆調査方法：郵送による配布、回収
- ◆回収率：41.9%（配布1000票、有効回収419票）

##### ②調査対象：保護者

- ◆調査期間：2019年2月26日～2019年3月13日
- ◆調査対象者：大台町の町立小学校、町立中学校の児童生徒の全保護者
- ◆調査方法：各学校から児童・生徒を通じて調査票を配布し、回収
- ◆回収率：78.1%（配布457票、有効回収357票）

※兄弟がいる場合は、1部の提出で可

#### (3) アンケート調査内容

A	回答者属性	▼性別・年齢・住んでいる小学校区・居住年数・出身小・中学校 ▼お子様の通学方法・通学時間	
B	学校施設の適正配置について	小学校	▼児童・生徒数の減少への対応について、及びその理由
		中学校	▼統廃合について ▼統廃合される場合重視する点（心配な点）について
		▼小中学校の適正配置の検討の進め方について	
C	地域と学校の関わりについて	小学校	▼小・中学校の役割について
		中学校	▼地域の小・中学校についてより良くなってほしいこと ▼地域の小・中学校の評価
D	自由意見（学校施設の適正規模・適正配置に関して）		

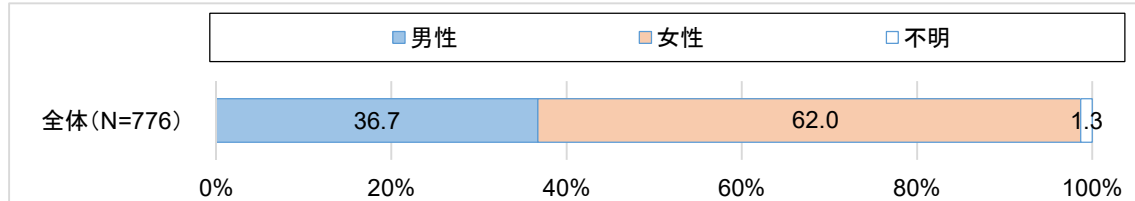
## (4) 調査結果

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならないものがあります。

### A. 回答者属性

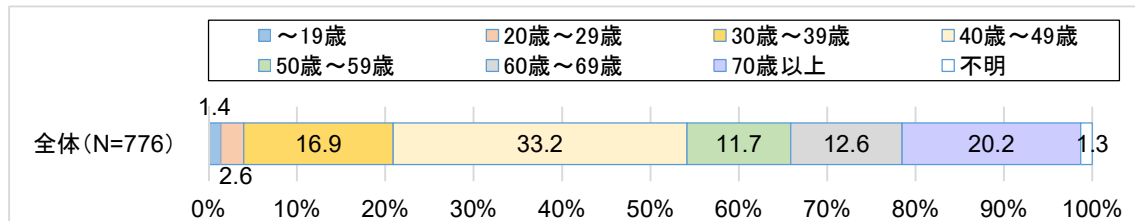
#### Q 性別

776人の方から回答を頂きました。回答者の性別をみると、「男性」が36.7%、「女性」が62.0%となっています。



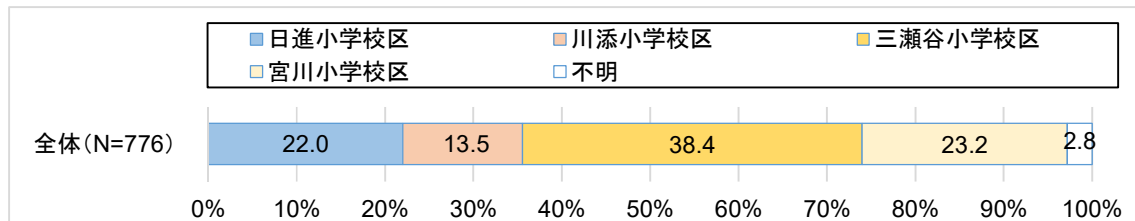
#### Q 年齢

年齢構成をみると、「40～49歳」(33.2%)が最も多く、以下、「70歳以上」(20.2%)、「30～39歳」(16.9%)、「60～69歳」(12.6%)、「50～59歳」(11.7%)と続いており、「～19歳」(1.4%)と「20～29歳」(2.6%)の割合は非常に低くなっています。



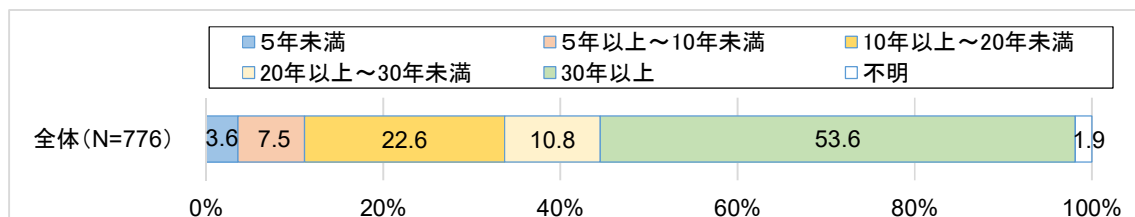
#### Q 住んでいる小学校区

住んでいる小学校区をみると、「三瀬谷小学校区」(38.4%)が最も多く、「宮川小学校区」(23.2%)、「日進小学校区」(22.0%)、「川添小学校区」(13.5%)と続いています。



#### Q 居住年数

居住年数をみると、「30年以上」(53.6%)が最も多く、以下、「10年以上～20年未満」(22.6%)、「20年以上～30年未満」(10.8%)と続いています。回答者は、概ね本町に居住して相当年数を経ている人が多くを占めています。



### Q 出身小・中学校

出身小・中学校をみると約6割を町内小・中学校の出身者が占めています。小学校では「三瀬谷小学校（分校含む）」、中学校では「(旧)三瀬谷中学校」が最も多くなっています。

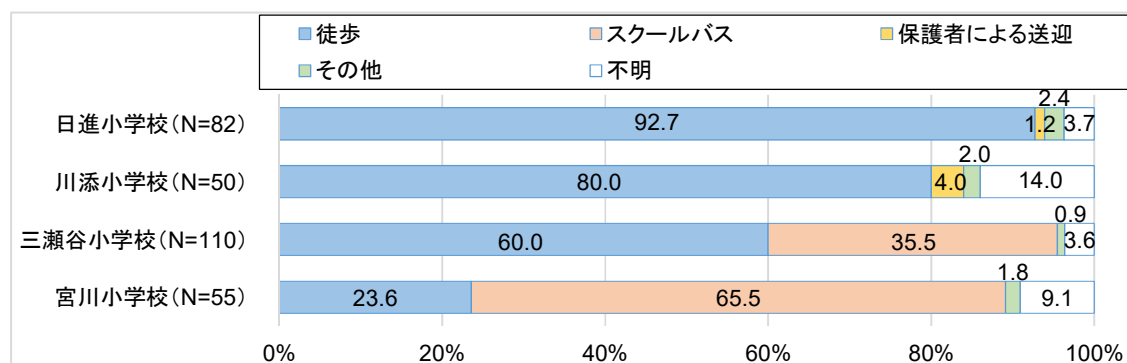
### Q お子様を通う小・中学校、通学方法、通学時間

※現在小中学校に通っているお子様がいる保護者の方のみ対象

小学校の通学方法をみると、日進小学校と川添小学校は「徒歩」が特出して多くなっています（それぞれ92.7%と80.0%）。

三瀬谷小学校は「徒歩」（60.0%）が6割、「スクールバス」（35.5%）が4割を占めています。

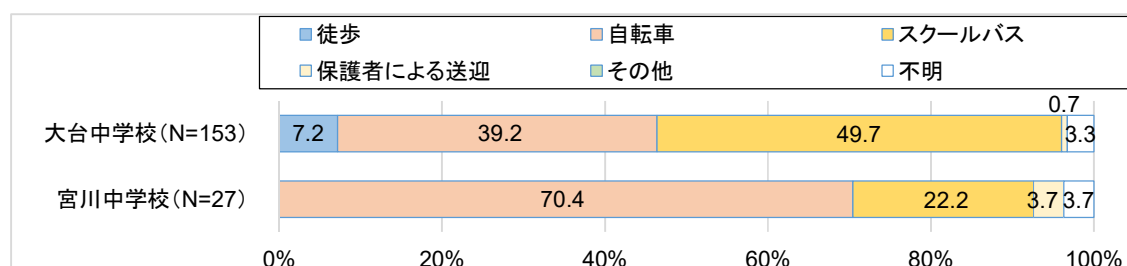
宮川小学校は「スクールバス」（65.5%）が7割と多く、続いて「徒歩」（23.6%）が2割を占めています。



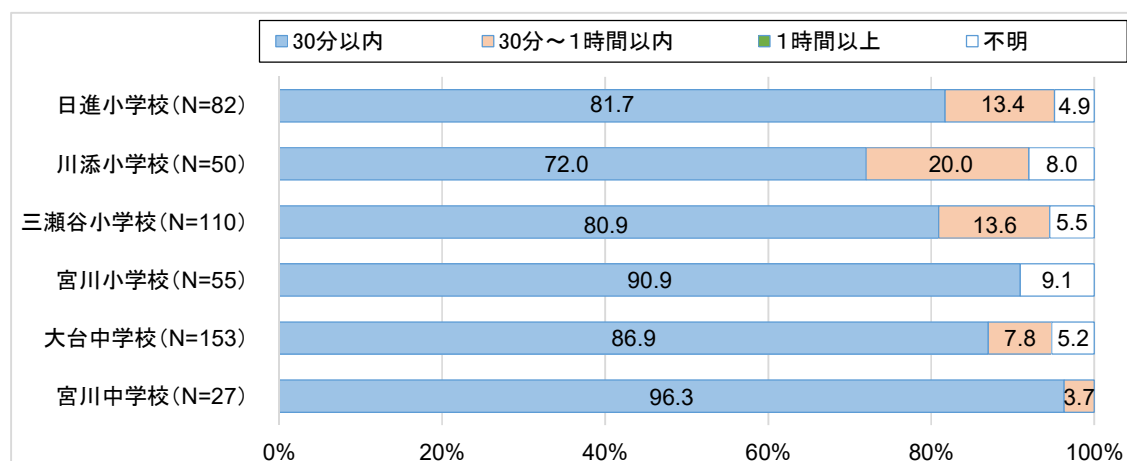
中学校の通学方法をみると、大台中学校は「自転車」（39.2%）が4割、「スクールバス」（49.7%）が5割を占めています。

宮川中学校は「自転車」（70.4%）が7割、「スクールバス」（22.2%）が2割を占めています。

大台中学校と宮川中学校ともに「徒歩」（それぞれ7.2%となし）は非常に少なくなっています。



通学時間をみると、どの学校も「30分以内」が特出して多く、ほとんどの学校が「30分以内」が8割以上を占めています。



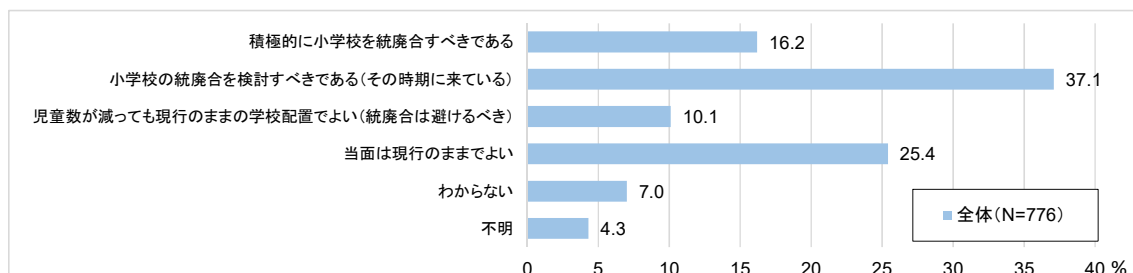
## B. 学校施設の適正配置について

### ■小学校について

**Q** 町内小学校の児童数の減少への対応について、望ましいと思うものは何ですか。

児童数の減少への対応について望ましいと思うものは、「小学校の統廃合を検討すべきである（その時期に来ている）」（37.1%）が最も多く、以下、「当面は現行のままでよい」（25.4%）、「積極的に小学校を統廃合すべきである」（16.2%）、「児童数が減っても現行のままの学校配置でよい（統廃合は避けるべき）」（10.1%）と続いており、合計すると **5割程度（計53.3%）が統廃合を容認、3割程度（計35.5%）が否定** といった割合になっています。

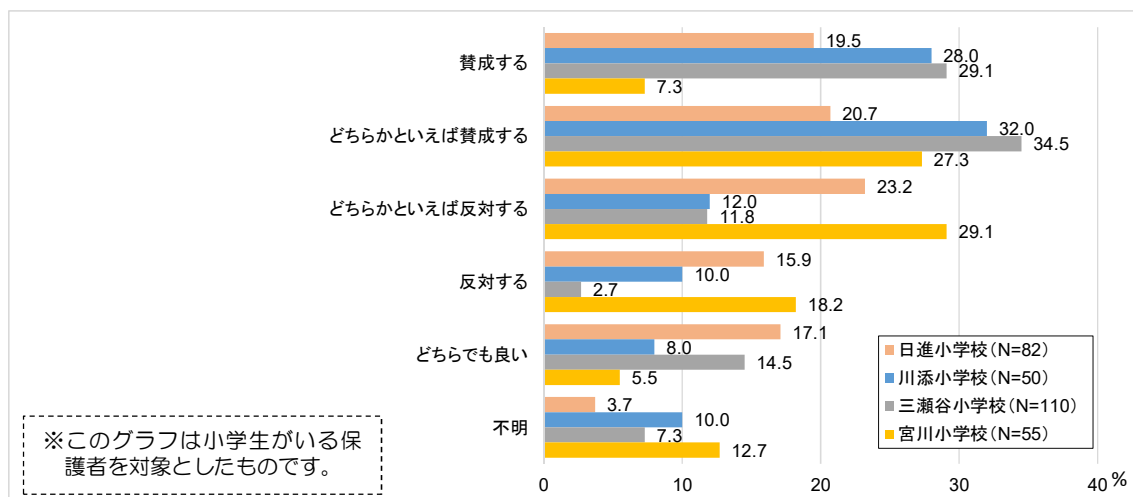
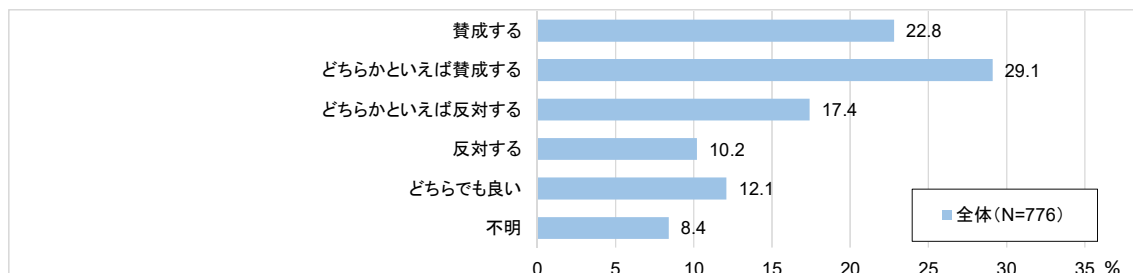
統廃合を容認する理由は「今後の少子化を考えるとやむを得ない」が特出して多く、否定する理由は「小学校は、地域のコミュニティ形成に必要なだから」、「通学距離が遠くなる」、「少人数でも教育環境に問題がない」等が多くなっています。



**Q** あなたの地域にある小学校の統廃合について賛成ですか。反対ですか。

小学校の統廃合についての賛否については、「どちらかといえば賛成する」（29.1%）が最も多く、以下、「賛成する」（22.8%）、「どちらかといえば反対する」（17.4%）と続いており、賛成が5割以上（51.9%）を占めています。

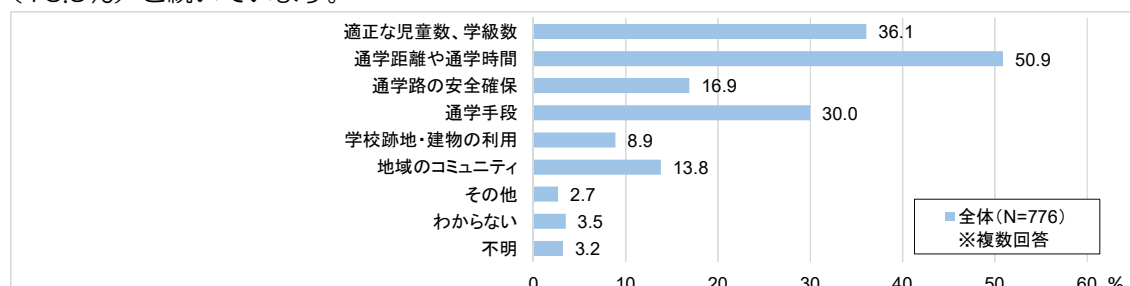
小学校に通う保護者の意見をみると、**川添小学校と三瀬谷小学校は賛成意見が多く、日進小学校は賛成と反対の意見が割れており、宮川小学校は反対意見が多くなっています。**



※このグラフは小学生がいる保護者を対象としたものです。

**Q 小学校が統廃合される場合重視する点（心配な点）は何ですか。**

小学校が統廃合される場合に重視する点（心配な点）については、「通学距離や通学時間」（50.9%）が最も多く、以下、「適正な児童数、学級数」（36.1%）、「通学手段」（30.0%）、「通学路の安全確保」（16.9%）と続いています。

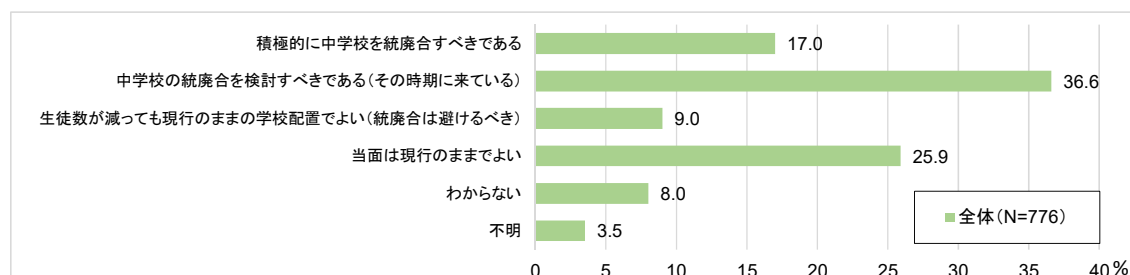


**■中学校について**

**Q 町内中学校の生徒数の減少への対応について、望ましいと思うものは何ですか。**

生徒数の減少への対応について望ましいと思うものは、「中学校の統廃合を検討すべきである（その時期に来ている）」（36.6%）が最も多く、以下、「当面は現行のままでよい」（25.9%）、「積極的に中学校を統廃合すべきである」（17.0%）、「生徒数が減っても現行のままの学校配置でよい（統廃合は避けるべき）」（9.0%）と続いており、合計すると **5 割程度（計 53.6%）が統廃合を容認、3 割程度（計 34.9%）が否定**といった割合になっています。

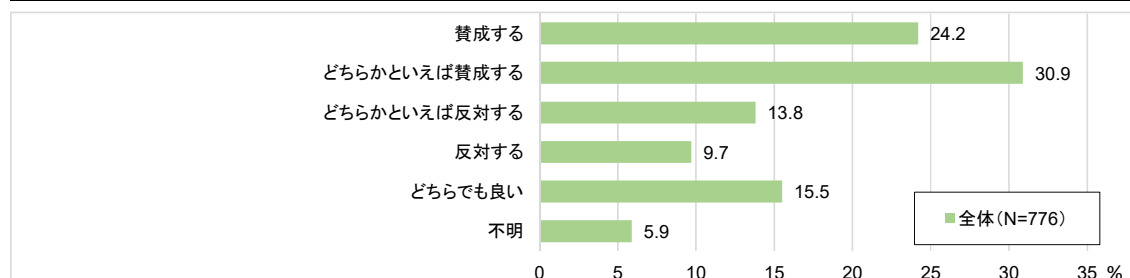
統廃合を容認する理由は「今後の少子化を考えるとやむを得ない」や「適正な学級数を維持するため。部活動の充実のため」が多く、否定する理由は「通学距離が遠くなる」や「少人数でも教育環境に問題がない」が多くなっています。

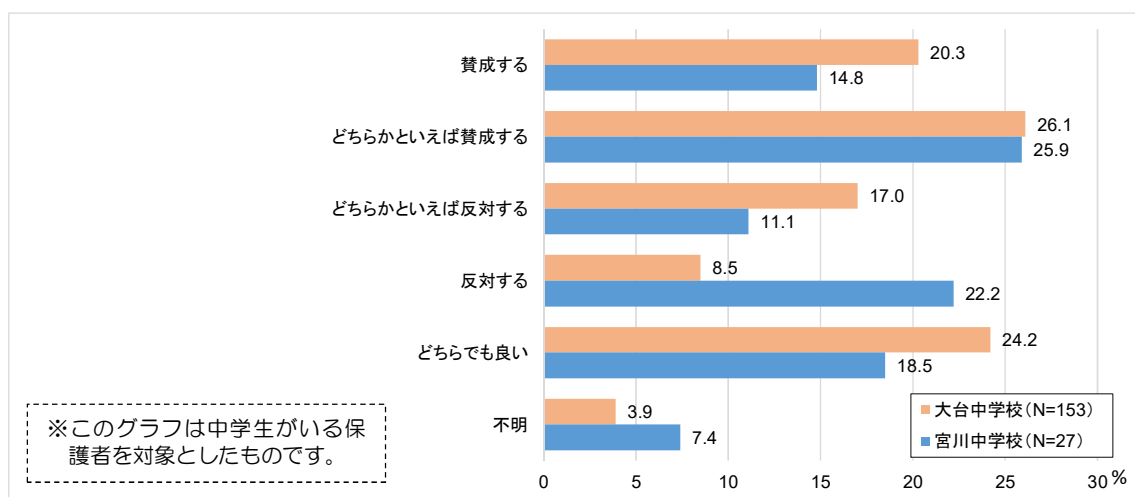


**Q あなたの地域にある中学校の統廃合について賛成ですか。反対ですか。**

中学校の統廃合についての賛否については、「どちらかといえば賛成する」（30.9%）が最も多く、以下、「賛成する」（24.2%）、「どちらでも良い」（15.5%）、「どちらかといえば反対する」（13.8%）と続いており、賛成が6割近く（55.1%）を占めています。

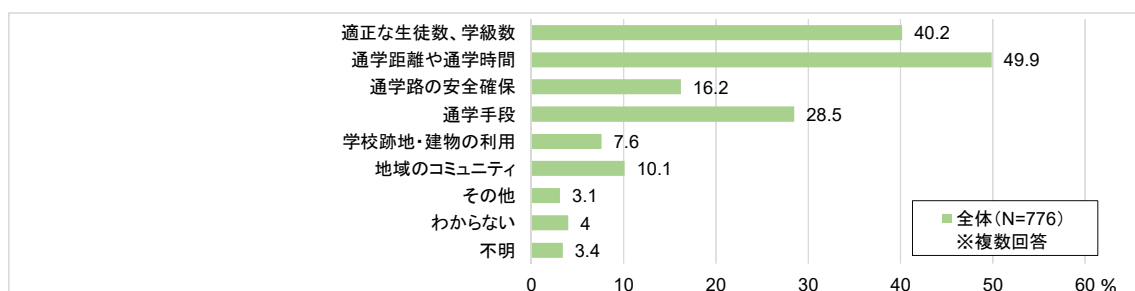
中学校別の保護者の傾向をみると、**宮川中学校、大台中学校ともに賛成意見が反対意見を上回っていますが、反対意見の割合は、宮川中学校が大台中学校と比較してかなり多くなっています。**





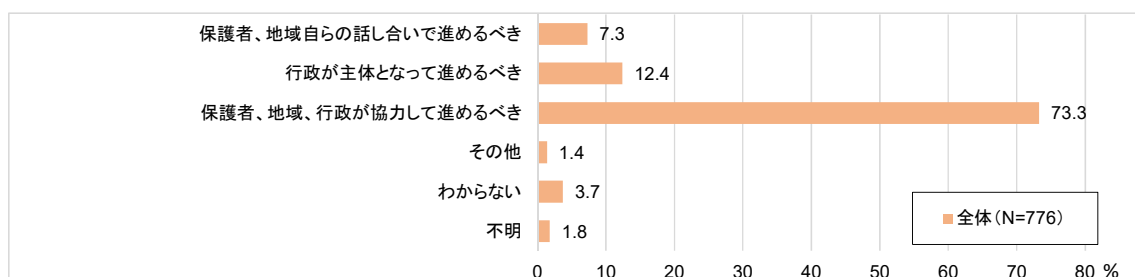
**Q 中学校が統廃合される場合重視する点（心配な点）は何ですか。**

中学校が統廃合される場合に重視する点（心配な点）については、「通学距離や通学時間」（49.9%）が最も多く、以下、「適正な生徒数、学級数」（40.2%）、「通学手段」（28.5%）、「通学路の安全確保」（16.2%）と続いています。



**Q 町内小中学校の適正配置検討の進め方について、望ましいと思うものは何ですか。**

小中学校の適正配置検討の進め方については、「保護者、地域、行政が協力して進めるべき」（73.3%）が特出して多くなっています。

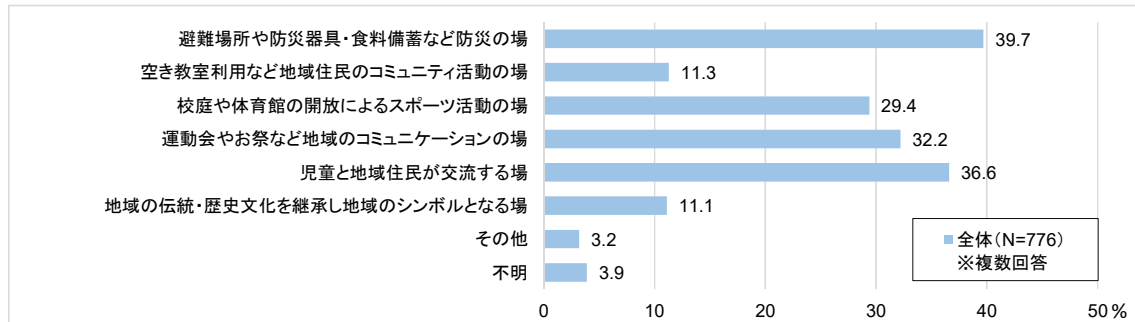


## C. 地域と学校の関わりについて

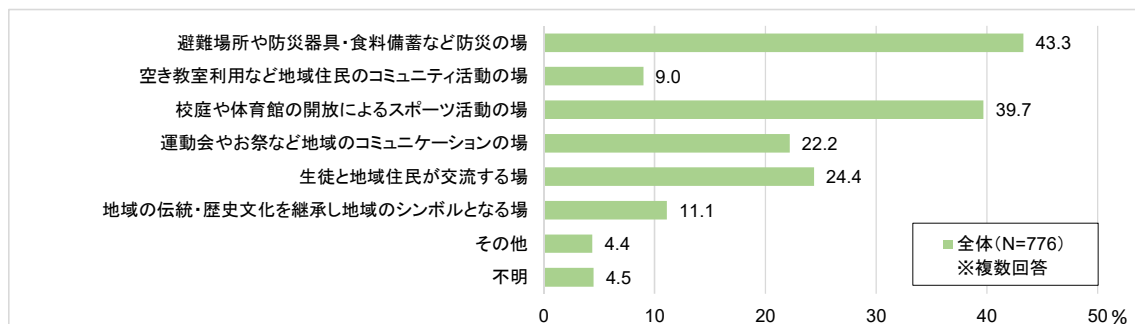
### Q 小学校・中学校の役割についてどう考えておられますか。

▼小学校・中学校の役割については、ともに「避難場所や防災器具・食料備蓄など防災の場」が最も多く約4割を占めています。次いで小学校では「児童と地域住民が交流する場」、中学校では「校庭や体育館の開放によるスポーツ活動の場」が多くなっています。

#### <小学校>



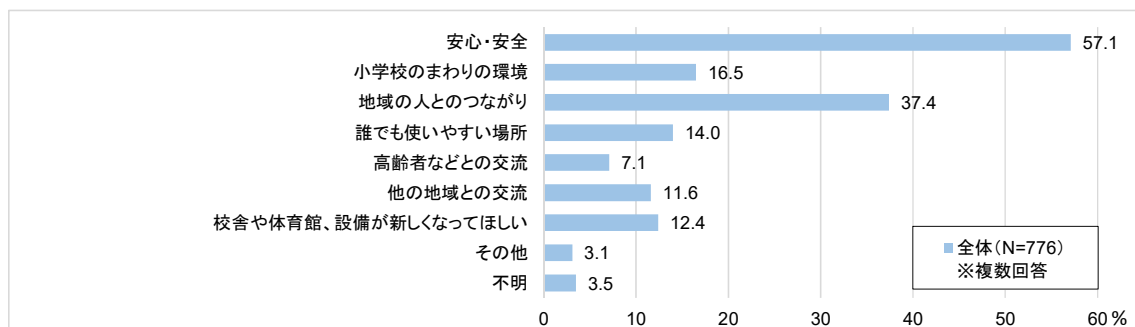
#### <中学校>



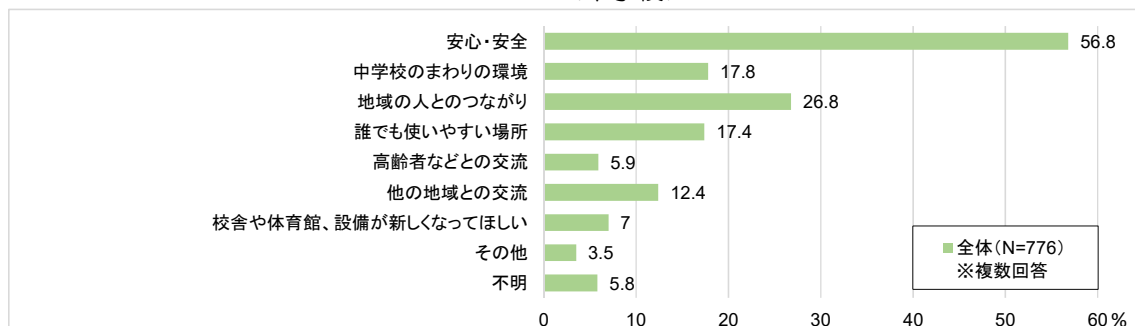
### Q お住まいの地域の小学校・中学校についてより良くなってほしいことは何ですか。

▼住んでいる地域の小学校・中学校の良くなってほしいことについては、ともに「安心・安全」が最も多く6割近くを占めています。次いで「地域の人とのつながり」が多くなっています。

#### <小学校>



#### <中学校>



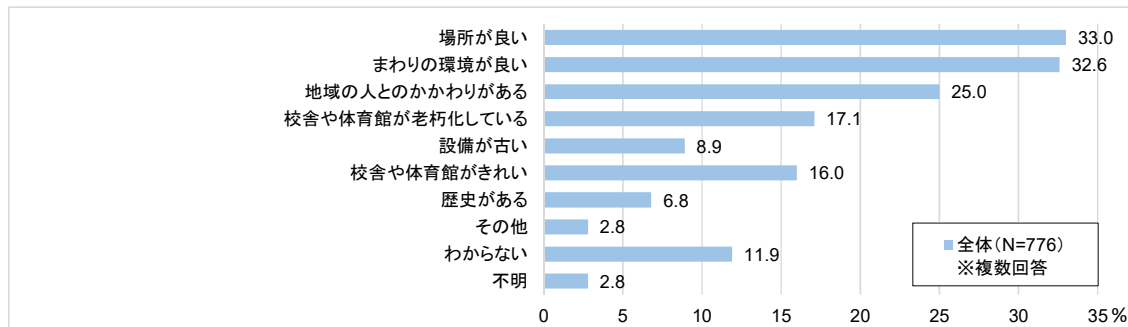


Q お住まいの地域の小学校・中学校をどう評価されておられますか。

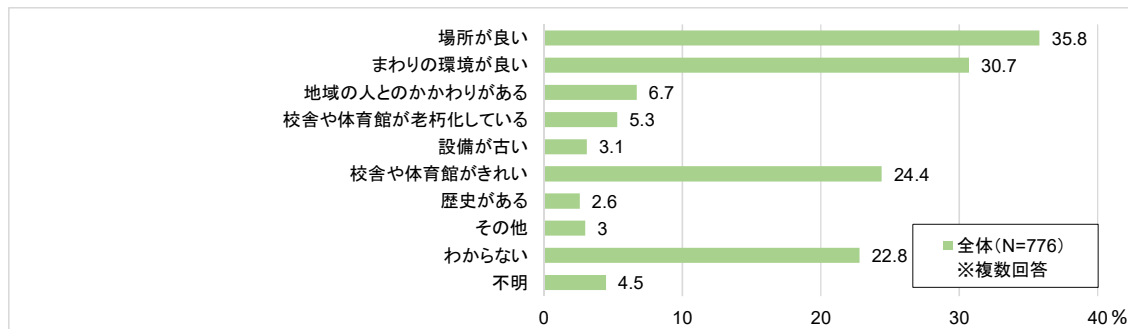
▼住んでいる地域の小学校・中学校の評価については、ともに「場所が良い」、「まわりの環境が良い」が多くなっています。

また、建築年の新しい宮川小学校、大台中学校については「校舎や体育館がきれい」が多くなっています。

<小学校>



<中学校>



# 第4章 学校施設の老朽化状況の実態

## 4-1 劣化状況の調査方法

劣化状況調査は、建物ごとに屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備の5つの部位について行いました。屋根・屋上、外壁については、目視調査により雨漏りの状況や、ひび割れなどの状況を調査し、内部仕上げ、電気設備、機械設備については、目視調査に加え、過去に行った工事などの実施年度から経過年数を調査しました。

通し番号				調査日		
学校名			学校番号			
建物名				記入者		
棟番号			建築年度	年度(      年度)		
構造種別	延床面積	m <sup>2</sup>	階数	地上	階	地下

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水			<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある			
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある			
	<input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 (      )			<input type="checkbox"/> 樋やルーフトンを目視点検できない			
2 外壁	<input type="checkbox"/> 塗仕上げ			<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある			
	<input type="checkbox"/> タイル張り、石張り			<input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			<input type="checkbox"/> 塗装の剥がれ			
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 (      )			<input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある			
	<input type="checkbox"/> アルミ製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修			
	<input type="checkbox"/> エコ改修			
	<input type="checkbox"/> トイレ改修			
	<input type="checkbox"/> 法令適合			
	<input type="checkbox"/> 校内LAN			
	<input type="checkbox"/> 空調設置			
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策			
	<input type="checkbox"/> 防犯対策			
	<input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策			
	<input type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策			
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修			
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事			
	<input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検			
	<input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 消防設備の点検			
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)

	健全度
	0 / 100点

図. 劣化状況調査票

## ■劣化状況評価

劣化状況の評価については、屋根・屋上、外壁は改修後10年以内のものや汚れ程度で概ね良好なものをA、部分的なひび割れや雨水排水不良などの劣化があるものをB、広範囲にひび割れ、雨水排水不良などの劣化や内部に小規模な雨漏り痕があるものをC、広範囲に幅広のひび割れや内部に複数の雨漏り痕があり、早急に対応する必要があるものをDとして、4段階による評価を行いました。内部仕上げ、電気設備、機械設備は、経過年数が20年未満のものをA、20年～40年未満のものをB、40年以上のものをC、経過年数に関わらず著しい劣化の事象がある場合をDとして4段階による評価を実施しました。

### 評価基準

#### 目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

#### 経過年数による評価 【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

### 健全度の算定

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標である。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定する。なお、②部位のコスト配分は、文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改修比率算定表を参考に、同算定表における「長寿命化」の7%分を、屋根・屋上、外壁に按分して設定している。

#### ①部位の評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

#### ③健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。  
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

部位	評価	評価点	配分	計算
1 屋根・屋上	C	40	5.1	204
2 外壁	D	10	17.2	172
3 内部仕上げ	B	75	22.4	1,680
4 電気設備	A	100	8.0	800
5 機械設備	C	40	7.3	292
計				3,148
				÷ 60
健全度				52

学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書(文部科学省)より

---

■構造躯体の健全性（耐震安全性・圧縮強度）

構造躯体の健全性は、耐震安全性、部材の圧縮強度(N/mm<sup>2</sup>)から整理しました。

耐震安全性については各「学校施設台帳」から耐震診断、改修状況を把握しました。

部材の圧縮強度(N/mm<sup>2</sup>)は「コア供試体の圧縮強度試験報告書」から把握しました。

# 4-2 調査結果

## 評価結果一覧

建物情報一覧表

A: 概ね良好 C: 広範囲に劣化  
B: 部分的に劣化 D: 早急に対応する必要がある

■: 築50年以上 ■: 築30年以上 ■: 基準 2018

通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟 番号	固定資 産台帳 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	構造躯体の健全性				劣化状況評価					備考				
						学校種別	建物用途				西暦	和暦		耐震安全性	診断	補強	調査 年度	長寿命化判定 圧縮 強度 (N/mm <sup>2</sup> )	試験上 の区分	屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上		電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点 満点)	
																											基準
1	2211	日進小学校	管理教室棟	①、⑨、⑩、⑫	3100050 00-52	小学校	校舎	RC	3	1,769	1964	S39	54	旧	済	済	2003	19.4		B	B	C	C	C	66		
2	2211	日進小学校	屋内運動場	⑥、⑧	3100050 00-53	小学校	体育館	S	2	1,017	1979	S54	39	旧	済	済	-	-		B	C	B	B	B	B	52	
3	2211	日進小学校	特別教室棟	⑩	3100050 00-55	小学校	校舎	RC	3	409	1998	H10	20	新	-	-	-	-		A	B	B	B	B	B	84	
4	2212	川添小学校	管理教室棟1	①、⑧、⑨、⑪	3100050 00-35	小学校	校舎	RC	3	1,454	1961	S36	57	旧	済	済	2017	23		A	A	C	C	C	C	62	
5	2212	川添小学校	屋内運動場	⑥	3100050 00-36	小学校	体育館	RC	2	767	1978	S53	40	旧	済	済	2017	31.7		A	B	C	C	C	C	55	
6	2212	川添小学校	管理教室棟2	⑦	3100050 00-37	小学校	校舎	RC	2	385	1985	S60	33	新	-	-	-	-		A	B	B	B	B	B	77	
7	2212	川添小学校	教室棟	⑩	3100050 00-40	小学校	校舎	S	2	140	2000	H12	18	新	-	-	-	-		A	A	A	A	A	A	100	
8	2213	三瀬谷小学校	管理教室棟	①-1~2、⑥、⑦	3100050 00-30	小学校	校舎	RC	3	3,160	1962	S37	56	旧	済	済	2017	21.4		B	B	B	C	C	C	66	
9	2213	三瀬谷小学校	屋内運動場	⑨	3100050 00-33	小学校	体育館	W	1	868	2009	H21	9	新	-	-	-	-		B	C	A	A	A	A	81	
10	2213	三瀬谷小学校	プール附属棟	⑩	3100050 00-34	小学校	その他	RC	1	122	2010	H22	8	新	-	-	-	-		B	C	A	A	A	A	81	
11	2227	宮川小学校	管理教室棟	①-1~2	3100050 00-16	小学校	校舎	W	3	2,860	1998	H10	20	新	-	-	-	-		A	C	B	B	B	B	67	
12	2227	宮川小学校	屋内運動場	②	3100050 00-19	小学校	体育館	W	1	819	1998	H10	20	新	-	-	-	-		C	B	B	B	B	B	72	
13	2227	宮川小学校	プール附属棟	③	3100050 00-20	小学校	その他	W	1	119	1998	H10	20	新	-	-	-	-		A	B	B	B	B	B	77	
14	4860	大台中学校	管理教室棟	①-1~2、⑥、⑦	3100050 00-47	小学校	校舎	RC	3	4,127	1993	H5	25	新	-	-	-	-		B	C	B	B	B	B	65	
15	4860	大台中学校	屋内運動場	②-1~3	3100050 00-44	小学校	体育館	RC	2	1,707	1993	H5	25	新	-	-	-	-		B	C	B	B	B	B	65	
16	4860	大台中学校	金木工棟	③	3100050 00-43	小学校	その他	S	1	191	1993	H5	25	新	-	-	-	-		B	B	B	B	B	B	75	
17	4860	大台中学校	給食調理室	⑧	3100050 00-50	小学校	その他	S	1	313	2014	H26	4	新	-	-	-	-		A	A	A	A	A	A	100	
18	4859	宮川中学校	管理・普通教室棟、給食室	①-1~2	3100050 00-22	小学校	校舎	RC	2	2,510	1980	S55	38	旧	済	済	2017	31.7		C	B	B	B	B	B	72	
19	4859	宮川中学校	特別棟	②	3100050 00-23	小学校	校舎	RC	2	2,207	1980	S55	38	旧	済	済	2017	35.7		C	B	B	B	B	B	72	
20	4859	宮川中学校	屋内運動場	⑧	3100050 00-25	小学校	体育館	RC	2	1,151	1981	S56	37	旧	済	済	2017	32.1		A	B	B	B	B	B	77	

【倉庫、部室等小規模施設を除いて整理】

## 劣化状況調査結果（概要）

### ①日進小学校

- 「管理教室棟（S39）」は、屋根（H27）及び外壁（H21）、内部（H23）の大規模改修がされており月日が経過していますが概ね良好です。
- 「屋内運動場（S54）」は、屋根の大規模改修がされており良好です。但し、外壁は39年経過している為、劣化が進んでおり、特に、「塗装やタイルの剥がれ」や「大きな亀裂」が多くみられます。
- 「特別教室棟（H10）」は、建築年が新しいため、全体的に良好です。



劣化状況



雨漏り痕（校舎3階）



ひび割れ、塗装の剥がれ（体育館階段部分）

## ②川添小学校

- ・「管理教室棟1（S36）」は、屋根及び外壁（H22）の大規模改修がされており月日が経過していますが良好です。また、築57年であり大台町で一番古い校舎となります。内部仕上等については、改修はしているものの経年による劣化がみられます。
- ・「屋内運動場（S53）」は、築40年が経過しているものの屋根は、耐震補強時に屋根を改修しているため、良好です。また、外壁も改修工事がされているため良好です。内部仕上等については、経年による劣化がみられます。
- ・「管理教室棟2（S60）」の屋根及び外壁は、改修工事されており概ね良好です。



劣化状況



雨漏り痕（体育館放送室）

ひび割れ（管理教室棟1）

### ③三瀬谷小学校

- 「管理教室棟（S37）」は、築56年と古い校舎ですが改修工事を行っているため、屋上及び外壁は、部分的には劣化があるものの概ね良好です。また、内部仕上げについても大規模改修（H4）をしているため、部分的には劣化があるものの良好です。
- 「屋内運動場（H21、木造）」は、比較的新しい建築物ですが、ひさし部分のひび割れが目立ちます。  
内部は、建築が比較的新しいため良好です。
- 「プール附属棟（H22）」は、比較的新しい建築物ですが、タイルの浮きが目立ちます。



劣化状況



ひび割れ（校舎玄関部分）



ひび割れ（体育館）



#### ④宮川小学校

- 「管理教室棟（H10）」は、比較的新しいものの木造建築のため雨漏りや外壁の腐食が一部みられ、外壁からの雨漏りが多数見られます。
- 「屋内運動場（H10）」は、屋根の損傷（瓦棒抑え材のずれ）や雨漏り痕が見られます。



劣化状況



雨漏り痕（校舎（図書室））



雨漏り痕（体育館）

⑤大台中学校

- 管理教室棟（H5）と屋内運動場（H5）の外壁は、「タイルの剥がれや浮き及び亀裂」があるなど劣化がみられます。
- 屋上の一部がアスファルト露出防水で、そのアスファルト露出防水が数カ所破れています。



劣化状況



防水シート剥がれ（校舎の屋上）



手すりモルタル剥がれ（体育館 2 階）

⑥宮川中学校

- ・「管理・普通教室棟、給食室（S55）」及び「特別棟（S55）」の屋上は、塗膜防水の劣化が多くみられるなど劣化が進んでいます。また、屋上の部分改修を行っています。また、雨漏りがある状況です。
- ・「屋内運動場（S56）」は、屋根の改修をしているため、良好です。また、外壁は、「塗装の剥がれ」や「大きな亀裂」などが一部にみられるものの建築年を踏まえると概ね良好です。



劣化状況



床の腐食（特別教室棟）



雨漏り対策（校舎2階 バケツの設置）

---

## 総括

各学校とも雨漏り痕や壁のひび割れ、塗装の剥がれなど劣化した部分が所々みられ、修繕が必要な施設はありますが、これまで大規模な改修や部分修繕などが行われてきたこともあり、全体的には安全性に問題があるような致命的な劣化は見られませんでした。

## 4-3 学校施設の課題

第3章「学校施設の運営状況・活用状況等の実態」、第4章「学校施設の老朽化状況の実態」の4-2 調査結果から学校施設の課題を整理します。

### ①学校施設の適切な維持、改修

本町には、小学校4校（日進、川添、三瀬谷、宮川小学校）、中学校2校（大台、宮川中学校）の合計6校の学校施設があります。日進小学校、川添小学校、三瀬谷小学校、宮川中学校においては一般的に建替えの検討が必要とされる築40年を経過する施設があります。

劣化状況調査結果からは特に安全性に問題がある施設はありませんでしたが、劣化状況評価が低い施設が散見されます。また、部分的に修繕が必要な施設もあります。これらについては、劣化状況に応じて適切に維持、改修を進める必要があります。

改修の実施にあたっては、単に建築時の状態に戻すのではなく、建物の長寿命化により建物の耐久性を高める必要があります。また、改修にあたっては、多様な学習形態による活動が可能となる教育環境の質的改善や省エネルギー化などの環境対策など、社会的要請に応じるための改修を検討する必要があります。

### ②厳しい財政状況を勘案した取組み

本町の歳入総額は、過去10年の推移をみると、70～100億円内外となっており、このうち地方交付税が33～37億円を占めています。今後は、就労人口の減少に伴う町税収入の減少や交付税の合併特例期間の終了に伴う交付額の減少が見込まれます。一方、歳出においては高齢化に伴う扶助費や町債の償還金が増加傾向にあるなど、今後とも厳しい財政状況が続くものと予想されます。今後、公共施設全体の維持管理に係る費用を現在のレベルで維持することが困難になると予想される中、「大台町公共施設等総合管理計画」では保有する公共建築物の全体面積を、人口減少や人口構造の変化を見据え、17%縮減するとしています。

本町の学校施設は昭和37（1962）年前後、昭和55（1980）年前後及び平成5（1993）年、平成10（1998）年に建築された建物が多く、将来的に同じ時期に改修や改築が集中することが懸念されます。個別の老朽化の状況を勘案しつつ、改修・改築時期の調整、統廃合を含む適正配置の検討を行い、施設関連経費の平準化、トータルコストの縮減を行っていく必要があります。

### ③学校規模の適正化・適正配置の検討

児童・生徒数は平成3年から平成27年までの24年間でおよそ半減するなど一貫して減少しており、今後とも減少傾向が続いていくものと見込まれます。学級数をみると、小中学校とも過小規模校・小規模校となっています。

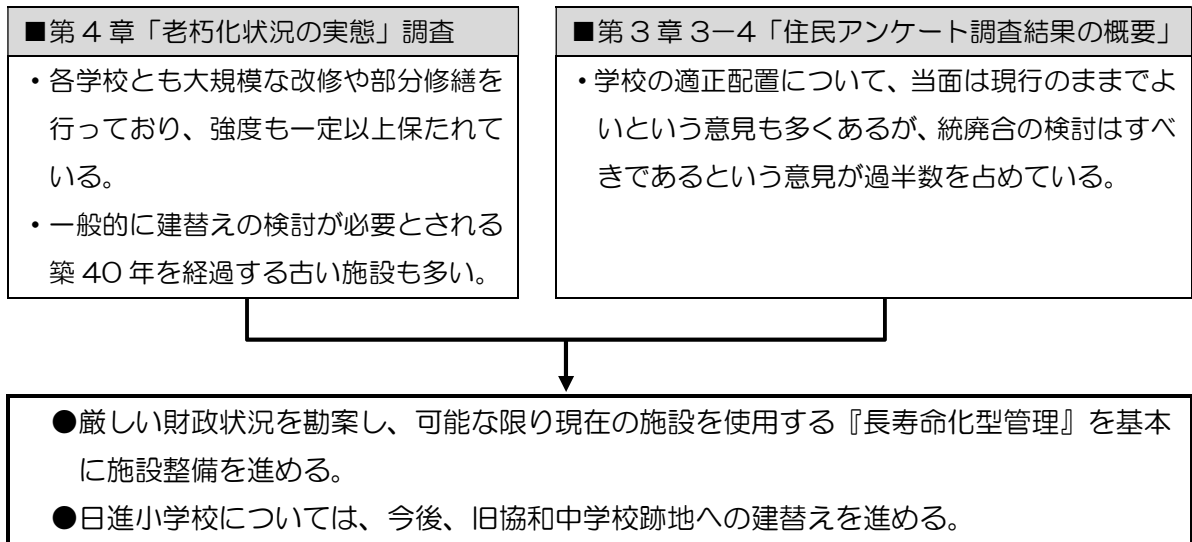
また、「学校施設のあり方に関する住民アンケート調査」では、「児童・生徒数の減少への対応」についてみると、当面は現行のままでよいという意見も多くありますが、統廃合の検討はすべきであるという意見が過半数を占めています。

当面は現在の施設を適切に使用していくことが必要ですが、将来的には、小中学校の規模や配置の適正化の検討が必要です。

## 第5章 学校施設整備の基本的な方針

### (1) 基本的な方針

第4章「老朽化状況の実態」調査、第3章3-4「住民アンケート調査結果の概要」を踏まえ、本町の学校施設は可能な限り現在の施設を使用する『長寿命化型管理』を基本に施設整備を進めるものとしますが、今後、適時適切に統廃合を検討していくものとします。



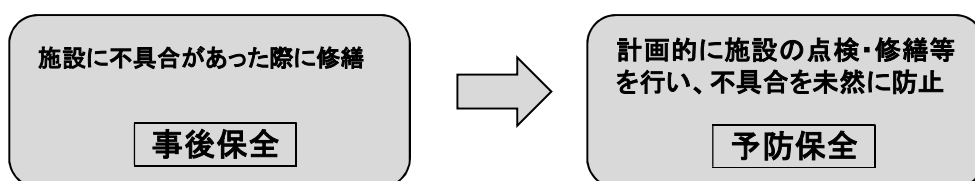
### (2) 長寿命化の基本方針

学校施設の長寿命化型管理は、①「適切な維持管理」、②「計画的な長寿命化改修」により実施していくものとします。

#### ①適切な維持管理

施設をできる限り長く使うため適切な維持管理を行っていくことが重要です。そのため、従来のように老朽化による劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行う「事後保全」型の管理から、計画的に施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換を図ります。

「予防保全」を行うことにより、突発的な事故や費用発生を減少させることができ、施設の不具合による被害のリスクを緩和することや、改修・日常的な維持管理の費用を平準化し、中長期的なトータルコストを下げる事が可能となります。



## ②計画的な長寿命化改修

計画的な長寿命化型管理を実施するため、「目標耐用年数」、「修繕、改修周期」を設定します。

### ■目標耐用年数の設定

学校施設の長寿命化の目標として、施設使用の計画期間である「目標耐用年数」を設定します。

目標耐用年数は「建築物の耐久計画に関する考え方」（日本建築学会）を参考とし、以下のよう  
に設定します。

表. 建築物全体の望ましい目標耐用年数の級

用途	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 レンガ造	木造
	高品質 の場合	普通の品質 の場合	重量鉄骨		軽量鉄骨		
			高品質 の場合	普通の品質 の場合	軽量鉄骨		
学校・官庁	Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上	Y60 以上	Y60 以上
住宅・事務所・病院	Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上	Y60 以上	Y40 以上
店舗・旅館・ホテル	Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上	Y60 以上	Y40 以上
工場	Y40 以上	Y25 以上	Y40 以上	Y25 以上	Y25 以上	Y25 以上	Y25 以上

※表における「高品質」、「普通の品質」の区別は、耐久性の高低を示す

(出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）)

表. 目標耐用年数の級の区分の例

級	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y150	150 年	120 年～200 年	120 年
Y100	100 年	80 年～120 年	80 年
Y60	60 年	50 年～80 年	50 年
Y40	40 年	30 年～50 年	30 年
Y25	25 年	20 年～30 年	20 年

(出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）)



表. 建築物の望ましい目標耐用年数

鉄筋コンクリート造 鉄骨・鉄筋コンクリート造	鉄骨造	木造
80 年	80 年	50 年

鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造：Y100 と Y60 の間の中間値を採用し 80 年  
木造：Y60 と Y40 の間の中間値を採用し 50 年

---

## ■修繕、改修周期の設定

従来は経年による機能・性能の劣化の原状回復を目的とした事後保全を適宜行い、一般的に建築後約40年が経過した段階で建替え（改築）を行うという周期になっています。今後は、計画的な大規模改造、長寿命化改修により築80年まで施設を使用することを目標とします。

長寿命化改修は、経年による機能・性能の劣化の原状回復だけでなく、機能・性能の向上も目的とした長寿命化改修工事を、目標耐用年数80年の中間年（建築後約40年）が経過した際に実施することで、既存施設の長寿命化を図り目標耐用年数まで使用するものとします。

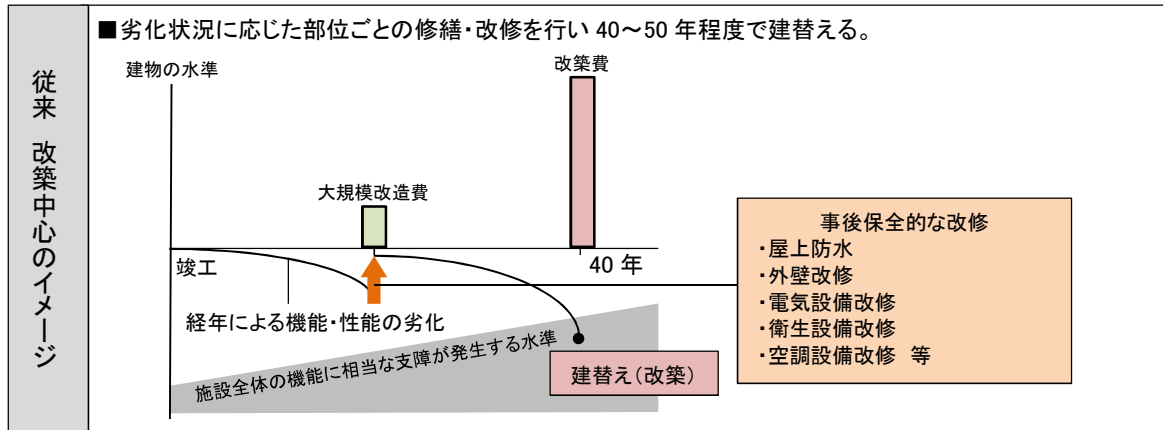
築20年	……	大規模改造（原状回復等）
築40年	……	長寿命化改修（原状回復、機能・性能向上等）
築60年	……	大規模改造（原状回復等）
築80年	……	建替え（改築）

### （木造）

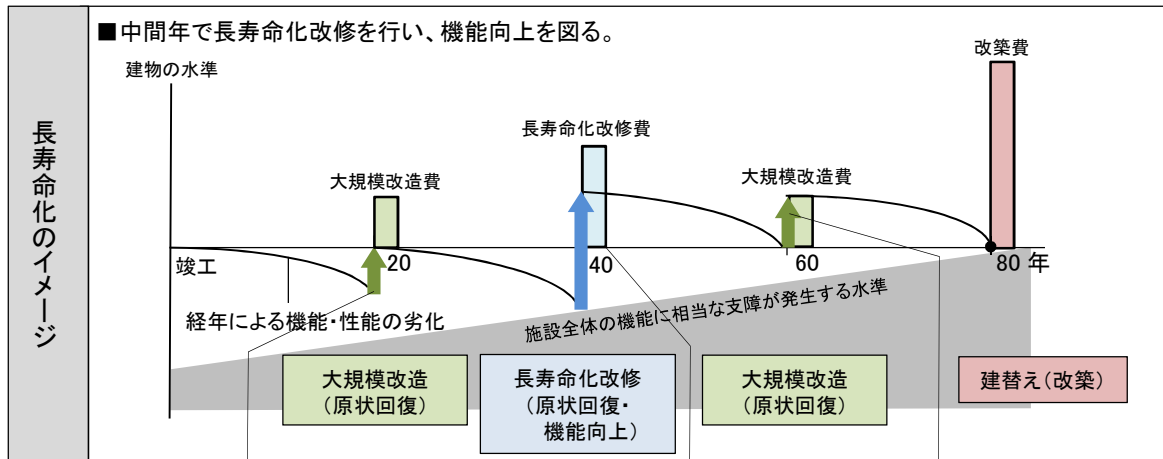
築20～30年	……	部位修繕又は大規模改造（原状回復等）
築50年	……	建替え（改築）



図. 修繕・改修・建替えのイメージ



(RC 造を築 80 年まで使用する場合)



**築 20 年目  
大規模改造  
(原状回復等)**

経年劣化により通常発生する損耗、機能低下に対する機能回復を図る。

(工事内容の例)

- ・防水改修
- ・外壁改修
- ・衛生設備改修
- ・空調設備改修 等

**築 40 年目  
長寿命化改修  
(原状回復+機能向上等)**

経年劣化による機能回復と、社会的要求に対応するための機能向上を図る。

(工事内容の例)

- ・防水改修 (断熱化)
- ・外壁改修 (断熱化)
- ・内部改修
- ・電気設備改修
- ・照明設備改修
- ・衛生設備改修
- ・空調設備改修
- ・バリアフリー改修
- ・多様な学習内容、学習形態への対応 等

**築 60 年目  
大規模改造  
(原状回復等)**

経年劣化により通常発生する損耗、機能低下に対する機能回復を図る。

(工事内容の例)

- ・防水改修
- ・外壁改修
- ・衛生設備改修
- ・空調設備改修 等

## 第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 6-1 改修等の整備水準

今後、学校施設の改修を行う際には、「安全面」、「機能面」、「環境面」の3つの視点に基づき、実施するものとします。

項目	概要	整備項目（例）
安全面	部材の経年劣化による外壁などの落下や、鉄筋の腐食、コンクリートの劣化による構造体としての強度の低下、水道・電気・ガスの設備配管等の劣化などの危険が生じないよう、安全の確保に配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁塗装、屋上防水、外部建具改修</li> <li>・天井の落下防止対策</li> <li>・ガラスの飛散防止対策</li> <li>・防犯カメラの設置</li> <li>・緊急通信設備の整備</li> </ul> 等
機能面	教育内容・方法の多様化に伴い、少人数指導や ICT を活用した教育に適応した設備を目指すとともに、老朽化したトイレの改修による衛生面の改善や、障害者の利用しやすいバリアフリー化への対応など、機能的な施設づくりに配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可動式間仕切り</li> <li>・可動式黒板の設置</li> <li>・ICT 機器の整備</li> <li>・校内無線 LAN の整備</li> <li>・少人数指導教室の整備</li> <li>・段差解消、手すり設置</li> <li>・トイレ改修（便器洋式化、床乾式化）</li> </ul> 等
環境面	壁や窓等の断熱化による冷暖房の効率化や、照明機器等の省エネルギー化による使用電力量の抑制、二酸化炭素排出量の削減など、エコ改修の推進により環境面に配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根、外壁などの断熱性の向上</li> <li>・LED 照明の設置</li> <li>・リサイクル建材の積極的な利用</li> <li>・高効率で省エネルギーに配慮した機器の選定</li> <li>・太陽光発電設備など、自然エネルギーの活用</li> </ul> 等

特に、長寿命化改修では、建物の耐久性を高めるための工事、建物の機能や性能を向上させるための工事を実施するものとします。

■建物の耐久性を高めるための工事	
・ 構造躯体の経年劣化を回復するもの（コンクリートの中性化対策や鉄筋の腐食対策等）	
・ 耐久性に優れた仕上材へ取り替えるもの（劣化に強い塗装・防水材等の使用）	
・ 維持管理や設備更新の容易性を確保するもの	
・ 水道，電気，ガス管等のライフラインの更新	

■建物の機能や性能を向上させるための工事	
・ 安全・安心な施設環境を確保するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震対策（非構造部材を含む）</li> <li>・ 防災機能の強化</li> <li>・ 事故防止・防犯対策</li> </ul> 等
・ 教育環境の質的向上を図るもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年の多様な学習内容・学習形態への対応</li> <li>・ 今後の学校教育や情報化の進展に対応可能な柔軟な計画</li> <li>・ 省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用</li> <li>・ バリアフリー化</li> <li>・ 木材の活用</li> </ul> 等
・ 地域コミュニティの拠点形成を図るもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災機能の強化</li> <li>・ バリアフリー化</li> <li>・ 地域住民の利用を考慮した教室等の配置の変更</li> </ul> 等

（出典：学校施設の長寿命化改修の手引（平成26年1月 文部科学省））

## 6-2 維持管理の項目・手法等

施設・設備を健全な状態に保つため、日常的な点検（施設・設備の日常的な変化の把握）、法に基づく定期点検を確実に実施するとともに、これらに加え、劣化状況調査を定期的の実施していくこととします。

劣化状況調査では第4章「学校施設の老朽化状況の実態」の調査で使用した「劣化状況調査票」を活用し、屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備の5つの部位について点検・評価を実施することとします。この劣化状況調査は5年毎に実施することを基本とします。

表. 点検・調査の種類と実施時期

点検・調査	調査者	実施時期	備考
日常点検	各学校	毎日	随時見回り
定期点検 (法定点検)	専門業者	定められた期間毎	建築基準法第12条点検 設備機器定期点検
劣化状況調査	各学校 専門業者	5年毎	「劣化状況調査票」を活用

図. 劣化度調査の項目(劣化状況調査票)(再掲)

通し番号				調査日	
学校名			学校番号		記入者
建物名				建築年度	年度( 年度)
棟番号			延床面積	m <sup>2</sup>	階数
構造種別				地上	階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水			<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある			
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある			
	<input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 ( )			<input type="checkbox"/> 樋やルーフトレを目視点検できない			
2 外壁	<input type="checkbox"/> 塗仕上げ			<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある			
	<input type="checkbox"/> タイル張り、石張り			<input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			<input type="checkbox"/> 塗装の剥がれ			
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 ( )			<input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある			
	<input type="checkbox"/> アルミ製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修			
	<input type="checkbox"/> エコ改修			
	<input type="checkbox"/> トイレ改修			
	<input type="checkbox"/> 法令適合			
	<input type="checkbox"/> 校内LAN			
	<input type="checkbox"/> 空調設置			
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策			
	<input type="checkbox"/> 防犯対策			
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修			
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事			
	<input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検			
	<input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 消防設備の点検			
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)

--

健全度
0 / 100点

## 第7章 学校施設の再編・再整備に向けた基本的な方針

本計画の上位計画となる「大台町公共施設等総合管理計画」における学校施設の基本的な方針は以下のように示されています。

### ■「大台町公共施設等総合管理計画」学校施設の管理に関する基本的な方針（再掲）

施設類型	基本的方針
学校施設	長期的な視点による効率的な維持管理を行い、予防保全の考え方により計画的に修繕等を実施し、施設の長寿命化を図るとともに学校規模の状況、児童・生徒数減少の動向、適正な通学区の設定、地元への影響等、諸条件を総合的に判断し、安全で快適な教育環境の整備を推進します。

また、「学校施設のあり方に関する住民アンケート調査」からは以下のように意見が整理できます。

### ■「学校施設のあり方に関する住民アンケート調査」学校の統廃合について

区分	意見
全体	・学校の適正配置について、統廃合の検討はすべきであるという意見が過半（将来的な児童・生徒数の減少に対して、小中学校ともに、5割程度が統廃合を容認、3割程度が否定）
小学校	・賛成意見多い……川添小学校、三瀬谷小学校 ・反対意見多い……宮川小学校 ・賛成・反対同程度……日進小学校
中学校	・賛成意見が反対意見を上回る……大台中学校、宮川中学校 （但し、反対意見の割合は宮川中学校多い）

以上から、当面現在の配置を維持するものとしますが、児童・生徒数の減少を考慮するとともに、町民ニーズ、地域の実情等を見極めつつ、統廃合を含め、適正規模・配置を検討していくものとします。

日進小学校については、今後、旧協和中学校跡地への建替えを進めます。

適正規模・配置の検討にあたっては、以下に示す視点に留意するものとします。

▼保護者、地域、行政の協力体制
▼隣接校との統合、適地での新築
▼学校規模・学級数
▼通学区の再編、通学距離・通学時間、通学手段、スクールバスの活用
▼廃校の校舎・跡地の利活用
▼余裕教室・空き施設の利活用
▼地域のコミュニティ

＜考察＞学校規模について

- ・児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられます。
- ・児童・生徒数の減少による小規模化のデメリット、あるいはメリットについて検討していく必要があります。
- ・統廃合した場合は、学校がなくなることによる地域コミュニティの衰退が懸念されることから、各地域の実情に応じた学校施設の配置の検討が必要です。

＜参考 1＞学校規模の標準（学校教育法施行規則第41条、第79条）

法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされているが、この標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっている。

＜参考 2＞望ましい学級数の考え方

小学校では、まず複式学級を解消するためには少なくとも1学年1学級以上（6学級以上）であることが必要。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには1学年2学級以上（12学級以上）あることが望ましい。

中学校についても、少なくとも1学年2学級以上（6学級以上）が必要。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保することが望ましい。

（出典：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引  
～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～ 平成27年1月27日 文部科学省）

表. 各小中学校の児童・生徒数(普通)、学級数

平成30年度 公立学校施設等の総括表

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計	学級数
日進小学校	9	13	28	8	21	13	92	6
川添小学校	6	9	10	6	9	10	50	5
三瀬谷小学校	24	33	18	22	19	38	154	6
宮川小学校	14	12	6	13	11	18	74	6
計	53	67	62	49	60	79	370	23

	1学年	2学年	3学年	計	学級数
大台中学校	42	60	45	147	6
宮川中学校	14	12	17	43	3
計	56	72	62	190	9

（出典：学校施設台帳）

### <参考 3>学級数が少ないことによる学校運営上の課題

一般に、学級数が少ない学校においては、児童生徒数や教職員数が少なくなることによる影響も含め、下記のような学校運営上の課題が生じる可能性があります。

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 通常より教員を多く配置すること（加配）なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

（出典：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引  
～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～ 平成27年1月27日 文部科学省）

### <参考 4>小規模校のメリット

一般に、小規模校には下記のようなメリットが存在すると言われています。

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

（出典：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引  
～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～ 平成27年1月27日 文部科学省）



## 第8章 長寿命化の実施計画

### (1) 改修等の優先順位づけ

改修等の順位づけの基本的な考え方については、次の点を考慮し決定します。

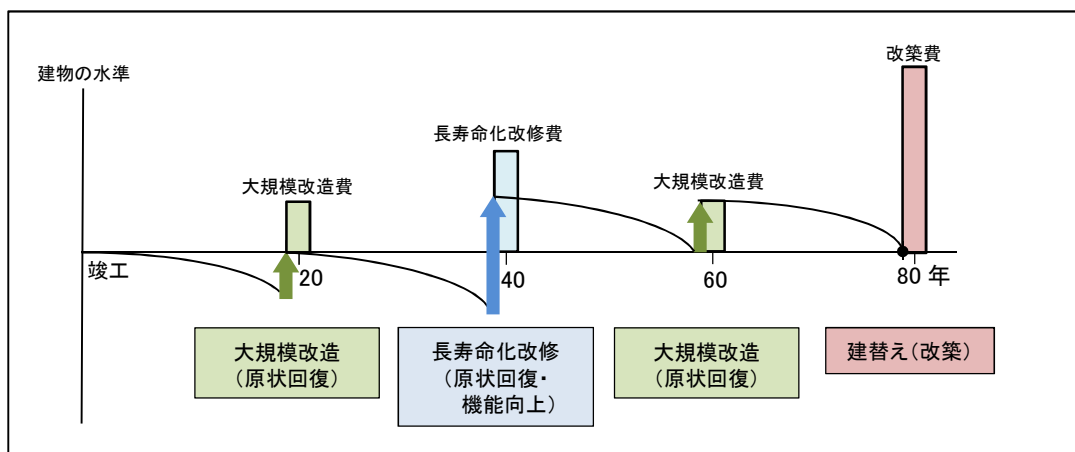
- ▼建築年次
- ▼過去の改修履歴
- ▼劣化状況調査の結果
- ▼工事周期（下図参照）

### ■工事周期のイメージ

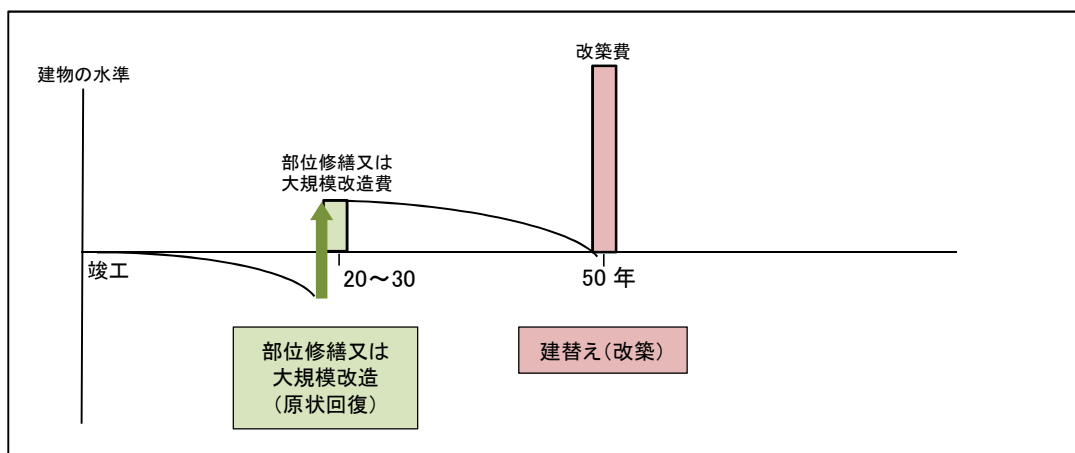
<基本型>

長寿命化型管理の建替え（改築）周期は、適切な時期に大規模改造や長寿命化改修を実施することを前提に80年とします（木造は50年で建替え（改築））。

(RC造)



(木造)



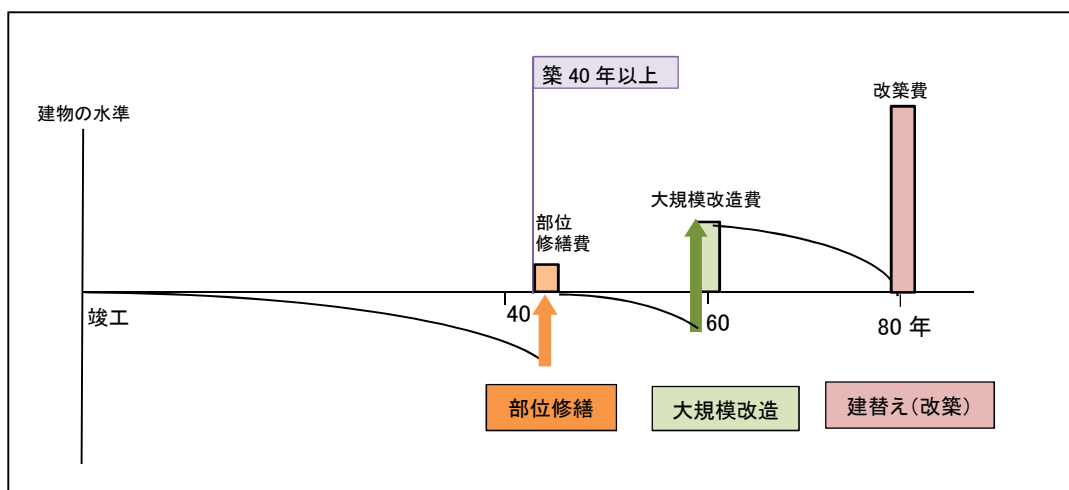
＜築年数概ね 40 年経過している施設＞

築 40 年経過している施設をすべて長寿命化改修（原状回復＋機能向上）するとかえって不経済になることが想定されます。そのため、建築年が古い施設については、今後計画的な「部位修繕・大規模改造」で対応し 80 年まで使用するものとします。

（築年数概ね 40 年経過している施設）

- ・日進小（管理教室棟・屋内運動場）
- ・川添小（管理教室棟 1・屋内運動場）
- ・三瀬谷小（管理教室棟）
- ・宮川中（管理・普通教室棟、給食室・特別棟・屋内運動場）

（築年数概ね 40 年経過している施設：「部位修繕・大規模改造 — 建替え（改築）」）



日進小学校については、令和 6（2024）年、令和 7（2025）年に建替え工事（旧協和中学校跡地）を行うものとします（令和 8（2026）年開校予定）。

## (2) 長寿命化のコストの見通しと長寿命化の効果

改修等の優先順位づけを考慮し、長寿命化改修を実施した場合、今後40年間の維持・更新コストは総額113億円(年平均2.8億円)となります。「従来型」から「長寿命型」に変更していくことで、従来型(総額123億円)より10億円、約8.1%の経費削減が期待できます。

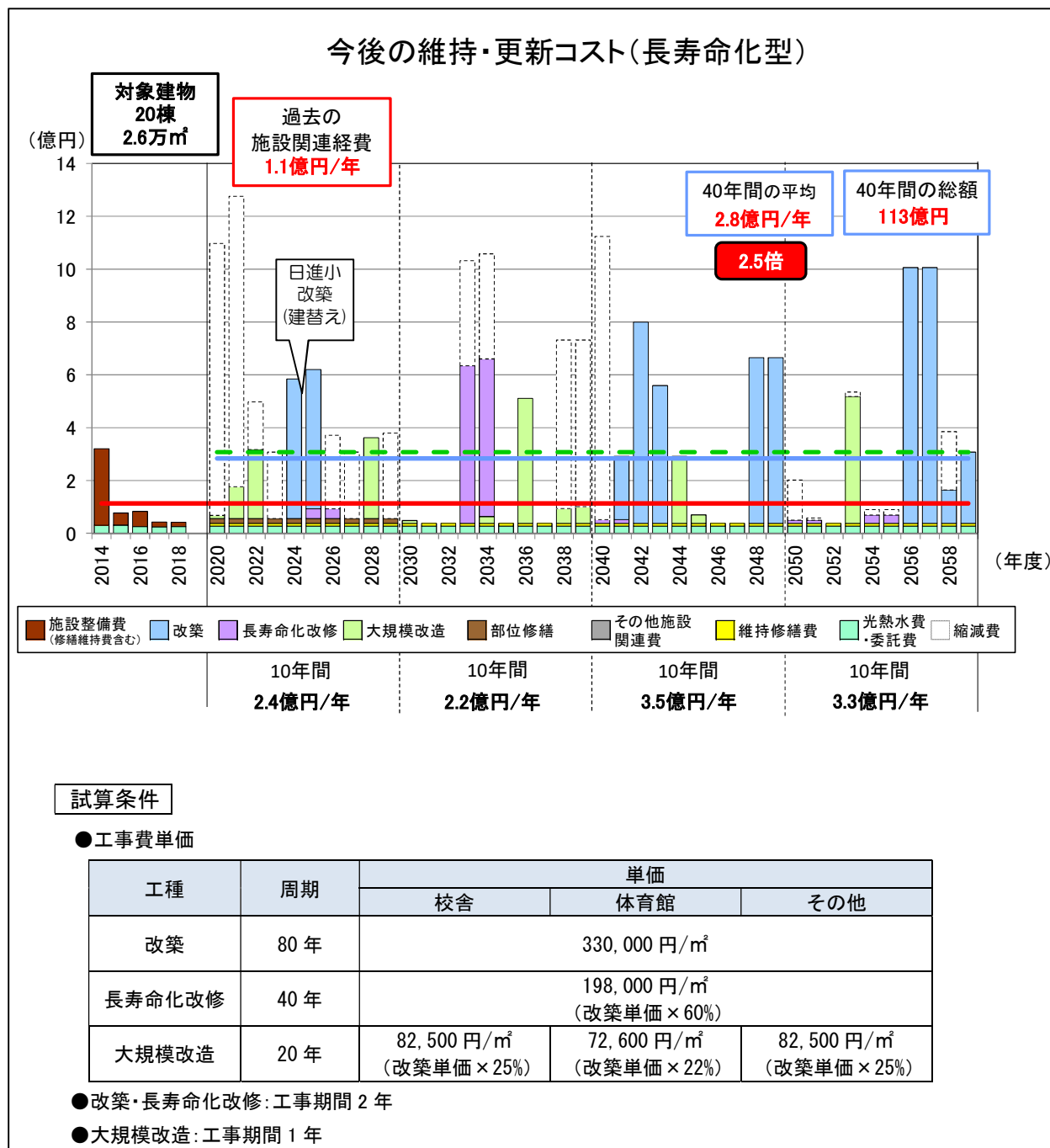


図. 今後の維持・管理コスト(長寿命化型)

### (3) 今後の実施計画

改修等の優先順位を考慮した今後5年間の実施計画（案）を以下に示します。

表. 今後5年間の実施計画(案)

事業名称		2020		2021		2022		2023		2024	
		R2		R3		R4		R5		R6	
		学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費
施設整備費	新增築事業										
	改築事業									日進小 (2024 R6 527.2) (2025 R7 527.2) (計 1,054.4)	
	耐震化事業 (非構造部材の 対策含む)	宮川中 屋内運動場 (吊り天井)	80.0								
	長寿命化改修										
	大規模改造(老朽)										
	部位修繕			大台中 教室棟 (外壁)	69.5	宮川小 教室棟 (外壁)	48.1	三瀬谷小 屋内運動場 (外壁)	10.0	川添小 管理教室棟1 (内部)	26.9
					大台中 屋内運動場 (外壁)	19.7	宮川中 教室棟 (屋上)	29.0	川添小 屋内運動場 (内部・設備)	30.6	
							宮川中 特別棟 (屋上)	25.5	三瀬谷小 プール附属棟 (外壁)	2.1	
									宮川小 屋内運動場 (屋上)	8.1	
合計		80.0		69.5		67.8		64.5		594.9	
日進小除く											
67.7											

## 第9章 長寿命化計画の継続的運用方針

### 9-1 情報基盤の整備と活用

適切に維持管理、改修等を行うための基礎資料とするため、第6章 6-2「維持管理の項目・手法等」において示した「日常点検」、「定期点検」、「劣化状況調査」の結果、及び過去の改修履歴・施設関連経費等をデータベース化し、学校施設の基本情報を管理する「公立学校施設台帳」と合わせ保管・蓄積することとします。

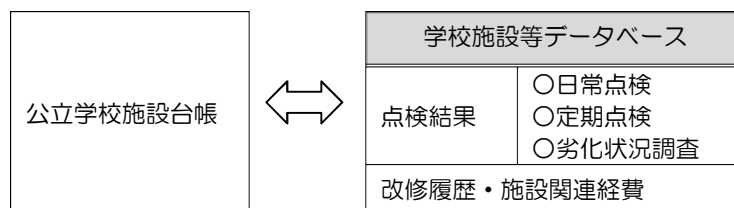


図. 学校施設等データベース化のイメージ

学校施設等データベースを基に長寿命化改修工事の実施や今後の点検・調査、長寿命化計画改定の際に活用するものとします。

### 9-2 推進体制等の整備

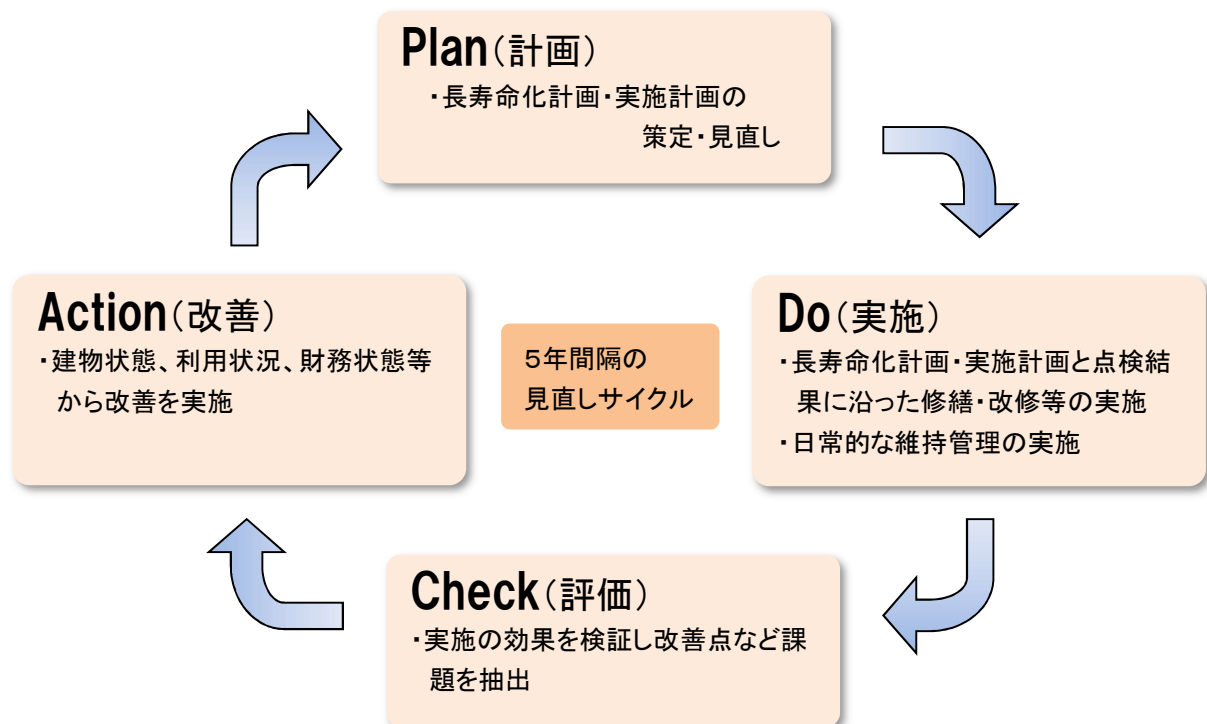
本計画は、学校施設を所管する教育委員会が中心となり、学校、点検実施専門業者、関連部署等とも連携し、改修内容の検討やスケジュール管理等を行います。

また、学校施設は、公共施設の一類型でもあり、「公共施設等総合管理計画」との連携が必要なことから、大台町公共施設等総合管理計画の全庁横断的な推進組織である「大台町公共施設等マネジメント推進会議」において計画の進捗状況を管理していきます。

一方、学校施設は「地域コミュニティや防災の拠点となる」施設であることから、具体的な取り組みの実施にあたっては、地元住民や関係団体等との意見交換を行うなど、住民意見を反映しながら事業化を進めていきます。

### 9-3 フォローアップ

本計画は40年間という長期の計画であり、児童生徒数の推移、財政状況や学校を取り巻く環境の変化、地域の実情に配慮した適正規模・配置等に対応する必要があるため、5年間隔を目的にPDCAサイクルによるフォローアップを実施することとします。



## 大台町学校施設長寿命化計画

策 定：令和2年3月

発 行：大台町教育委員会

〒519-2404 三重県多気郡大台町佐原 750 番地

TEL：0598-82-3791 FAX：0598-82-3115